

教育に関する事務の点検・評価報告書  
(平成23年度分)

平成24年8月

横手市教育委員会

## 平成 23 年度横手市教育委員会委員

委員長 小 松 恵里子

委員長職務代理者 石 成 千  
(平成 23 年 11 月 16 日まで)

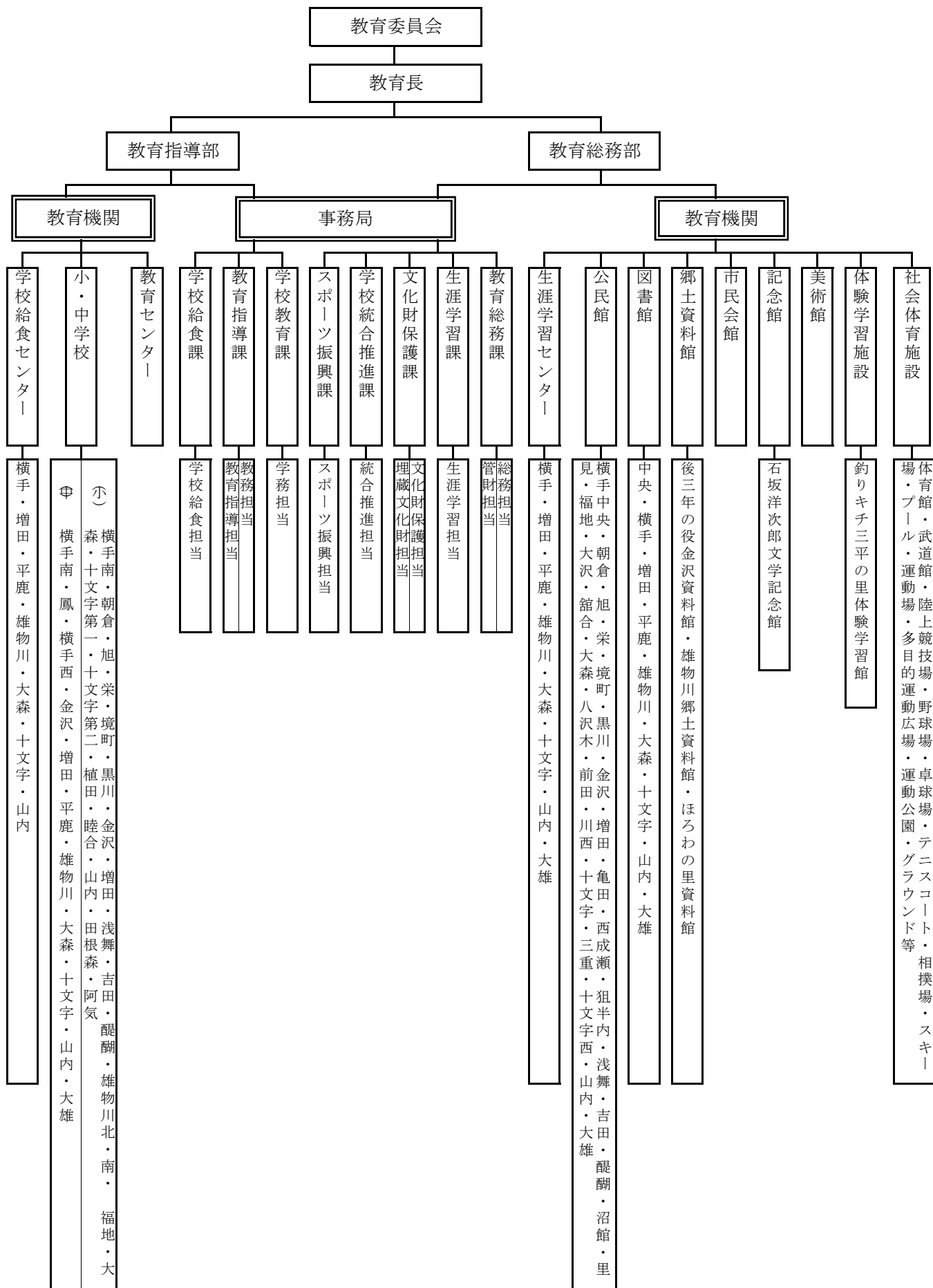
委 員 二階堂 衛  
(平成 23 年 11 月 17 日より委員長職務代理者)

委 員 三 橋 由美子

委 員 橋 本 知加子  
(平成 23 年 11 月 17 日より)

委 員 (教育長) 高 橋 準 一

# 教育委員会事務局の機構図 (H23. 4. 1)



— 目 次 —

I	点検・評価の趣旨等	1
1	点検・評価の趣旨	
2	点検及び評価の対象	
3	学識経験者の知見の活用	
4	報告書の作成	
II	教育委員会の活動状況	3
1	教育委員会会議の開催状況	
2	主な活動状況	
III	点検・評価の結果	
1	学校教育の充実	
(1)	学校施設の整備	
①	学校統合推進事業	9
②	スクールバス運行事業	10
③	公用車購入事業	11
④	学校施設設備改修事業	12
⑤	小中学校管理	13
⑥	学校給食センター統合事業	14
(2)	教育環境の整備	
①	英語指導助手招へい事業	15
②	奨学金貸付事業	16
③	就園奨励事業	17
④	すこやか子育て支援事業 (ひとり親家庭児童保育援助費補助事業含む)	18
⑤	学校保健管理事業	19
⑥	教育相談	20
⑦	「心の教室相談」事業	21
⑧	不登校適応指導教室事業	22
⑨	学校生活サポート事業	23
⑩	次世代ものづくり人材育成事業	24
⑪	スクールガード・リーダー配置事業	25
⑫	「言語活動の充実」に係る研究指定事業	26

⑬就学前言語障害児指導事業	27
⑭通学援助	28
⑮特別支援教育就学奨励	29
⑯要保護及び準要保護就学援助	30
⑰小中学校各種大会派遣事業	31
⑱学校図書館活性化事業	32
⑲学校給食事業	33

## 2 生涯学習の推進

### (1) 生涯学習の基礎づくりへの推進

①家庭教育支援事業	34
②成人式開催事業	35
③ジュニアリーダー育成事業	36

### (2) 市民の学びへの支援

①学校支援ボランティア活動支援事業	37
-------------------	----

### (3) 多彩な学習機会の提供

①読書感想文コンクール事業	38
---------------	----

### (4) 学習の場と推進体制の整備

①放課後子ども教室推進事業	39
②生涯学習センター事業	40
③生涯学習施設改修事業	49
④社会教育施設運営事業	50
⑤芸術文化推進事業	53
⑥図書館運営	54
⑦市立図書館改修事業	55
⑧市立図書館充実事業	56
⑨市立図書館支援サービス拡充事業	57
⑩学びの場整備事業	58

## 3 地域文化の振興

### (1) 文化財の指定と保存活用

①指定文化財保護管理	59
②埋蔵文化財緊急調査事業	60

③市内本調査（県委託、国庫補助）	61
④市内遺跡詳細分布調査（国庫補助）	62
⑤文化財普及活動	63
（2）ふるさとよこて博物館構想	
①各資料館の運営	64
（3）後三年合戦（役）史跡保存整備計画策定調査	
①後三年合戦関連遺跡調査費	65
②後三年合戦保存活用整備事業	66
③大鳥井山遺跡保存管理計画策定事業	67
4 生涯スポーツの振興	
（1）ライフステージとニーズに合ったスポーツサービス	
①奥羽横断駅伝競走大会事業	68
②スポーツのまちづくり事業	69
③大会補助	71
④体育協会活動補助事業	72
⑤スポーツ賞表彰事業	73
⑥友好都市スポーツ交流事業	74
⑦体育施設環境整備事業	75
IV 学識経験者の意見（総評）	76

# I 点検・評価の趣旨等

## 1 点検・評価の趣旨

教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することが「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に規定されている。そこで、本市教育委員会では、法律の趣旨に基づき効果的かつ効率的な教育行政を推進し、市民への説明責任を果たすため、所管する事務の管理・執行について点検・評価を実施し、本報告書を作成した。なお、点検及び評価の内容等については、議会や市民の意見を踏まえながら随時改善を加え、適切な制度の運用に努めていくこととする。

## 2 点検及び評価の対象

本年度の点検・評価の対象は、平成23年度における教育委員会の事務の管理執行状況とし、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第23条に置いて教育委員会の職務権限とされる事務をはじめ、本教育委員会が所管するすべての事務を対象範囲としている。実際の点検・評価にあたっては、横手市総合発展計画の教育文化分野において各重点施策に定める事業を踏まえながら、教育委員会が行っている主な事務・事業を網羅する形で対象事業を選定している。

## 3 学識経験者の知見の活用

点検・評価にあたっては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第2項の規定により、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることが求められている。これは、教育委員会による自己点検、自己評価について客観性を確保するものであり、元小学校長の清水瑛二氏、市社会教育委員の佐藤友治氏の2名から意見を聴いた。

## 4 報告書の作成

教育委員会の事務を4分野に分類して記載した。4分野は、1. 学校教育の充実、2. 生涯学習の推進、3. 地域文化の振興、4. 生涯スポーツの振興とし、「点検・評価」対象事業ごとに、事業の目的、事業の実施状況、事業の効果等、今後の課題・改善策について各事業の担当課が原案を作成し、教育委員の点検・評価を経て記載した。また、学識経験者から点検・評価案について意見を聴取し、いただいた意見については総評として掲載した。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 27 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 3 項の規定により事務局職員に委任された事務を含む）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。



## Ⅱ 教育委員会の活動状況（平成23年度）

### 1. 教育委員会会議の開催状況

横手市教育委員会の会議は、原則公開で毎月1回の定例会のほか必要に応じて臨時会を開催している。会議では5名の教育委員（教育長1名を含む）が教育行政の運営に関する基本方針や教育委員会規則の制定・改廃、教科書の採択、横手市指定文化財の指定など、委員会会議において議決を要する事項について審議・決定を行うとともに、重要な事項について事務局から報告を受けている。

平成23年度の教育委員会会議の開催状況は次のとおりである。

期 日	場 所	付議案件等
平成23年 第4回定例会 (23.4.25)	雄物川庁舎 大会議室	(承認事項) ・ 事故による損害賠償の額を定めること及びこれに伴う和解に関する意見の申出について ・ 横手市学校評議員の委嘱について ・ 平成23年度横手市一般会計補正予算に関する意見の申出について (議決事項) ・ 横手市社会教育委員の委嘱について ・ 横手市立小中学校通学区域に関する規則の一部を改正する規則について ・ 学校法人の行うことのできる収益事業の種類指定に関する規則を廃止する規則について
第5回定例会 (23.5.23)	横手庁舎 第5第6委員会室	(承認事項) ・ 横手市就学指導委員会委員の委嘱について (議決事項) ・ 平成24年度使用教科用図書採択手続きについて ・ 平成23年度横手市一般会計補正予算に関する意見の申出について
第6回定例会 (23.6.27)	あさくら館 工房	(承認事項) ・ 横手市スポーツ振興審議会委員の任命について ・ 事故による損害賠償の額を定めること及びこれに伴う和解に関する意見の申出について ・ 事故による損害賠償の額を定めること及びこれに

		伴う和解に関する意見の申出について
第7回定例会 (23.7.26)	横手庁舎 第1第2会議 室	(議決事項) ・横手市立小中学校管理規則の一部を改正する規則について ・横手市特別支援教育就学奨励費交付要綱の一部を改正する訓令について ・横手市学校給食センター運営委員会規則の一部を改正する規則について ・横手市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について ・平成24年度使用教科用図書の採択について ・教育に関する事務の点検・評価報告書(平成22年度実績)について
8回定例会 (23.8.22)	横手庁舎 第5第6委員 会室	(議決事項) ・横手市学校教育施設整備基金条例に関する意見の申出について ・横手市立学校使用規則及び横手市立図書館管理運営規則の一部を改正する規則について ・平成23年度横手市一般会計補正予算に関する意見の申出について (報告事項) ・横手市公民館長の任命について
第9回定例会 (23.9.26)	横手庁舎 第5第6委員 会室	(承認事項) ・工事請負契約の締結に関する意見の申出について ・財産の取得に関する意見の申出について (議決事項) ・横手市スポーツ賞授与規則の全部を改正する規則について (報告事項) ・職員の分限処分について
第10回定例会 (23.10.24)	横手庁舎 第1第2会議 室	(議決事項) ・横手市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例及び横手市スポーツ振興審議会条例の一部を改正する条例に関する意見の申出について ・横手市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する

		<p>る規則等の一部を改正する規則について (報告事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横手市教育委員会事務局職員の任免について</li> </ul>
<p>第 11 回定例会 (23. 11. 24)</p>	<p>横手庁舎 第 1 第 2 会議 室</p>	<p>(承認事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故による損害賠償の額を定めること及びこれに伴う和解に関する意見の申出について</li> </ul> <p>(議決事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横手市教育委員会委員長の選挙について</li> <li>・横手市教育委員会委員長職務代理者の指定について</li> <li>・横手市公民館設置条例及び横手市立図書館設置条例の一部を改正する条例に関する意見の申出について</li> <li>・平成 2 3 年度横手市一般会計補正予算に関する意見の申出について</li> </ul>
<p>第 12 回定例会 (23. 12. 26)</p>	<p>横手庁舎 第 1 第 2 会議 室</p>	<p>(承認事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石坂洋次郎文学記念館施設運営協議会委員の委嘱について</li> </ul>
<p>平成 2 4 年 第 1 回定例会 (24. 1. 25)</p>	<p>横手庁舎 第 5 第 6 委員 会室</p>	<p>(議決事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横手市社会体育施設設置条例の一部を改正する条例に関する意見の申出について</li> <li>・横手市社会体育施設管理運営規則の一部を改正する規則について</li> <li>・横手市立図書館設置条例の一部を改正する条例に関する意見の申出について</li> <li>・横手市立図書館管理運営規則の一部を改正する規則について</li> <li>・横手市学校給食センター設置条例の一部を改正する条例に関する意見の申出について</li> </ul>
<p>第 2 回定例会 (24. 2. 20)</p>	<p>南庁舎講堂</p>	<p>(議決事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横手市招致外国青年任用要綱の一部を改正する訓令について</li> <li>・工事請負契約の締結に関する意見の申出について</li> <li>・平成 2 3 年度横手市一般会計補正予算に関する意見の申出について</li> <li>・平成 2 4 年度教育方針について</li> <li>・平成 2 4 年度横手市一般会計予算に関する意見の申</li> </ul>

		出について
第1回臨時会 (24.3.5)	かまくら館 ミーティング ルーム	(議決事項) ・平成24年度教職員の人事異動について
第3回定例会 (24.3.26)	横手庁舎 第5第6委員 会室	(承認事項) ・横手市教育委員会事務局職員の任免について (議決事項) ・横手市教育ビジョンについて ・横手市生涯学習推進計画第2次計画について ・横手市社会教育委員の委嘱について ・横手市生涯学習奨励員の委嘱について ・横手市教育委員会公印規則の一部を改正する規則について ・横手市児童生徒に対する通学費補助金交付要綱の一部を改正する訓令について ・横手市教育委員会事務局職員の職名に関する規則の一部を改正する規則について (報告事項) ・横手市教育委員会事務局職員の任免について
開催回数 13回 [内訳] 定例会 12回 臨時会 1回		付議案件等数 55件 [内訳] 承認事項 12件 議決事項 39件 報告事項 4件

(注)「承認事項」は、横手市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則により、教育長が専決処理した事項に関する承認のこと。

## 2. その他の主な活動

教育委員は、定例等の教育委員会会議に出席するほか、各種会議や関係行事に出席している。平成23年度における主な活動は次のとおりである。

時 期	会議・行事等	概 要
平成23年		
4月	・市立小中学校入学式	小学校6校、中学校6校に出席した。【5名】
5月	・秋田県市町村教育委員会連合会第1回定期総会 ・秋田県都市教育長協議会総会 ・全県市町村教育委員会委員長・教育長会議	平成23年度第1回定期総会（於：秋田市）に出席した。【1名】 平成23年度総会（於：秋田市）に出席した。【1名】 秋田県教育委員会が開催した会議（於：秋田市）に出席した。【2名】
6月～11月	・学校訪問	市立小中学校を訪問し、授業参観後に学校長より経営説明を受けた。【5名】
7月	・東北六県市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会	東北六県各市町村教育委員を対象とした研修会（於：秋田市）に出席した。【3名】
8月	・成人式 ・第61回秋田県公民館大会	「STARS ～未来に希望の光を託して～」をテーマに、新成人による実行委員会が主体となって開催した成人式へ出席した。【3名】 「地域の輪（つながり）」を大会テーマに開催された大会（於：横手市）へ出席した。【3名】
10月	・全県市町村教育委員会委員長・教育長会議 ・市町村教育委員会研究協議会（第1ブロック） ・第40回秋田県特別支援教育研究大会横手大会	秋田県教育委員会が開催した会議（於：秋田市）に出席した。【2名】 文部科学省及び秋田県教育委員会が主催し、各市町村教育委員会の情報・意見交流を行う研究協議会（於：秋田市）に出席した。【1名】 「一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進」を大会テーマに開催された大会に出席した。【2名】
11月	・秋田県都市教育長協議会教育長会議 ・「言語活動の充実」に	秋田県都市教育長協議会が主催した会議（於：由利本荘市）に出席した。【1名】 平成22年・23年度全市指定2校において実践研究の

<p>平成24年</p> <p>2月</p> <p>3月</p>	<p>係る研究指定事業公開研究会</p> <p>・秋田県市町村教育委員会連合会第2回定期総会及び委員研修会</p> <p>市立大雄中学校・大森中学校・雄物川中学校閉校式典</p> <p>市立小中学校卒業式</p>	<p>成果を授業及び研究協議において公開する研究会に出席した。【3名】</p> <p>平成23年度第2回定期総会（於：秋田市）及び教育委員研修会に出席した。【3名】</p> <p>大雄中学校・大森中学校・雄物川中学校の閉校式典に出席した。【5名】</p> <p>小学校10校、中学校5校に出席した。【5名】</p>
----------------------------------	--	---

### Ⅲ 点検・評価の結果

1 学校教育の充実		分野	1.学校教育の充実
項目	(1)学校施設の整備	担当部課	教育総務部 学校統合推進課
点検・評価対象事業名	①学校統合推進事業		
対象事業において支出した金額	3,652,750 千円		
事業の目的	<p>現在、横手市では校舎の老朽化が進み、子どもの数が年々減少している。本来、学校教育は集団で行うことを基本としており、様々な考え方や体験を持つ子ども達が集団活動を通して切磋琢磨し、学び合う場であることを考えると、一定の学校規模の確保が重要であることから、理想的な学級数を確保し、良好な教育環境を整備する。</p>		
事業の実施状況	<p>◎西部地区中学校統合事業(横手明峰中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○校舎・屋体建築工事 (床面積12,421㎡ 内訳:校舎9,231㎡、大体育館1,870㎡、小体育館879㎡、武道場441㎡)</li> <li>○屋外体育施設建設工事 (陸上競技場 300mトラック、野球場 中堅110m両翼90m、テニスコート 人工芝4面)</li> <li>○外構・付属棟建築工事 (アスファルト舗装11,333㎡、農園854㎡、部室棟2棟《床面積147㎡、69㎡》物置《床面積21㎡》)</li> <li>○駐輪場建築工事 (188㎡×2棟)</li> <li>○太陽光発電設備工事 (発電能力10kw)</li> </ul> <p>◎横手地区中学校統合事業(横手北中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○用地造成工事 (Ⅰ工区21,100㎡、Ⅱ工区30,000㎡、Ⅲ工区27,300㎡)</li> <li>○校舎・屋体建築工事 (床面積12,454㎡ 内訳:校舎棟8,616㎡《内駐輪場988㎡》、体育館棟3,838㎡《内柔剣道場495㎡、音楽室197㎡》スクールバス車庫184㎡《バス4台分》太陽光発電設備《発電能力10kw》)</li> <li>○屋外体育施設建設工事 (陸上競技場 400mトラック、野球場 中堅110m両翼90m、テニスコート 人工芝3面、部室棟2棟《床面積234㎡、94㎡》駐車場10,830㎡、農園925㎡(ほか))</li> </ul> <p>◎雄物川地区小学校統合事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○旧雄物川中学校解体工事実施設計</li> <li>○統合校舎等基本・実施設計</li> <li>○地質調査</li> </ul>		
事業の効果等	<p>◎西部地区中学校(横手明峰中学校)統合事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○工事を完了し、教育総務課へ財産の引継ぎを行った</li> </ul> <p>◎横手地区中学校(横手北中学校)統合事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平成25年4月1日の開校に向け工事に着手</li> </ul> <p>◎雄物川地区小学校統合事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○解体、建設の設計が完了</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<p>◎雄物川地区小学校統合事業 工事概要説明会を開催する</p> <p>◎大雄地区小学校統合事業 校舎検討委員会を設置し、整備の方針を固める</p> <p>◎横手地区小学校統合事業 造成工事を完了し、設計に向けた準備を進める</p>		

		分野	1. 学校教育の充実												
項目	(1) 学校施設の整備	担当部課	教育指導部 学校教育課												
点検・評価対象事業名	②スクールバス運行事業														
対象事業において支出した金額	61,514 千円														
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運行規定に基づき、効率的な運用及び学校教育の向上に資する。</li> <li>・遠距離通学児童生徒の登下校の完全確保を図る。</li> </ul>														
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の通学距離は、小学校4km、中学校6kmを目途とし、運行している。</li> <li>・通学以外には、市、教育委員会、体育連盟主催の大会等への選手派遣や社会科見学等の校外学習にも通学時間に支障のない場合に運行している。</li> <li>・小学校9校17台、中学校3校9台、及び冬季運行中学校2校4台、冬季レンタル小学校2校2台を運行している。</li> </ul> <table border="0"> <tr> <td>・主な経費</td> <td>・人件費</td> <td>35,073 千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・燃料費</td> <td>10,368 千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・修繕費</td> <td>11,313 千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・その他</td> <td>4,760 千円</td> </tr> </table>			・主な経費	・人件費	35,073 千円		・燃料費	10,368 千円		・修繕費	11,313 千円		・その他	4,760 千円
・主な経費	・人件費	35,073 千円													
	・燃料費	10,368 千円													
	・修繕費	11,313 千円													
	・その他	4,760 千円													
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の教育効果を高め、登下校の安全確保及び保護者負担軽減が図られた。</li> </ul>														
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校統合に伴う新規購入により、運行管理費の一般財源確保の調整が困難となってくる。</li> <li>・路線バスのダイヤ改正、廃止等に伴い、今後の運行計画の改善についての検討をする必要がある。</li> <li>・横手南中学校冬季バス運行について、大沢・外の目方面2地域を運行したが、清水町地域からの要望があり、対応するための調査等が必要となる。</li> <li>・車両の増加に伴い、運行管理の徹底がこれまで以上に必要となってくる。</li> </ul>														



		分野	1. 学校教育の充実
項目	(1) 学校施設の整備	担当部課	教育指導部 学校教育課
点検・評価対象事業名	③ 公用車購入事業		
対象事業において支出した金額	76,857 千円		
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年4月の雄物川中学校、大森中学校・大雄中学校統合のためマイクロバス2台中型バス5台を購入し、遠距離通学の緩和を図る。</li> <li>老朽化した醍醐小学校スクールバス(15人乗りワゴン)1台をマイクロバス(29人乗り)に更新する。 醍醐小学校スクールバス H7.2登録 117,000km</li> </ul>		
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>主な経費 <ul style="list-style-type: none"> <li>・役務費 544 千円</li> <li>・備品購入費 75,973 千円</li> <li>・公課費 340 千円</li> </ul> </li> </ul>		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>更新により、児童生徒の教育効果を高め、登下校における交通安全や防犯も含めた安全確保の保持や保護者の負担軽減が図られた。</li> <li>スクールバスは、学校教育の一環として実施する対外競技大会や社会科見学などの校外活動にも活用しており、生徒の校外活動の充実が図られた。</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も老朽化した車輛の年式、走行距離等を精査し、適切な更新をしていく必要がある。</li> </ul>		

		分野	1.学校教育の充実
項目	(1)学校施設の整備	担当部課	教育総務部 教育総務課
点検・評価対象事業名	④学校施設設備改修事業		
対象事業において支出した金額	36,772 千円		
事業の目的	<p>経年劣化の著しい校舎及び校舎内設備の改修により、児童・生徒の安全・安心で快適な学校生活環境を確保する。</p>		
事業の実施状況	<p>※主なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・田根森小学校外構工事 4,648千円 平成22年度に改築した体育館周りの舗装等を整備したもの</li> <li>・増田小学校暖房設備改修工事 15,329千円 教室等に設置しているFF式暖房機を全て更新したもの</li> <li>・田根森小学校洋風便器交換工事 1,491千円 洋式便器がなかったため各所トイレに洋式便器を設置したもの</li> <li>・金沢小学校体育館屋根雨漏り改修工事 9,324千円 雨漏りが激しかった体育館屋根をカバー工法で全面改修したもの</li> <li>・横手南中学校道場屋根改修工事 3,847千円 錆が生じていた道場屋根を塗装したもの</li> <li>・平鹿中学校渡り廊下屋根防水改修工事 2,134千円 雨漏りが生じていた渡り廊下屋根のアスファルト防水を改修したもの</li> </ul>		
事業の効果等	<p>工事の実施により児童・生徒の安全・安心・快適な教育環境を確保することができた。</p>		
今後の課題・改善策	<p>今後も存続する建物については、計画的な改修工事を行う。</p>		

		分野	1.学校教育の充実
項目	(1)学校施設の整備	担当部課	教育総務部 教育総務課
点検・評価対象事業名	⑤小中学校管理		
対象事業において支出した金額	42,057 千円		
事業の目的	<p>経年劣化や雪害で傷んだ校舎及び校舎内設備の改修により、児童・生徒の安全・安心で快適な学校生活環境を確保する。</p>		
事業の実施状況	<p>※主なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山内小学校食堂雨漏り修繕工事 1,278千円 雪害により雨漏りが生じた屋根の補修を行ったもの</li> <li>・十文字地区小学校監視カメラ設置工事 1,291千円 玄関・昇降口に不審者対策のための監視カメラを設置したもの</li> <li>・福地小・南小・阿気小洋風便器改修工事 2,450千円 洋式便器がなかった学校に各所トイレに洋式便器を設置したもの</li> <li>・増田中学校校舎・玄関ポーチ、物置小屋屋根改修工事 6,291千円 雪害により破損した屋根の補修を行ったもの</li> <li>・増田中学校自転車置場改築工事 1,812千円 雪害により破損した自転車置場1棟改築をしたもの</li> </ul>		
事業の効果等	<p>工事の実施により児童・生徒の安全・安心・快適な教育環境が確保することができた。</p>		
今後の課題・改善策	<p>今後も存続する建物については、計画的な改修工事を行う。</p>		

		分野	1.学校教育の充実
項目	(1)学校施設の整備	担当部課	教育指導部 学校給食課
点検・評価対象事業名	⑥学校給食センター統合事業		
対象事業において支出した金額	327 千円		
事業の目的	<p>現在、小学校と中学校に7ヶ所の給食センターで学校給食を提供しているが、その施設・設備の老朽化により、衛生管理や施設維持管理に要する経費が増加してきている。また、児童・生徒数の減少等による学校統合計画が推進されている。</p> <p>そこで、適正な規模で安定的に安心安全な学校給食を提供できる新たなセンターが必要となる。既設センターの統廃合を実施し、平成26年度から4ヶ所のセンターで給食事業を運営する。</p>		
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年11月に基本・実施設計プロポーザル審査会を実施。(3JVが参加) 近・小野・ひかり・酒井設計 横手市学校給食センター建設工事 基本・実施設計業務共同企業体と平成23年12月19日付けで契約締結。 委託期間:平成23年12月20日～平成24年6月29日</li> <li>平成24年3月に地質調査業務委託の入札を実施。(6社が参加) 奥山ボーリング(株)と平成24年3月19日付けで契約締結。 委託期間:平成24年3月21日～平成24年6月29日</li> </ul> <p>※上記事業は繰越明許費で平成24年度事業扱い</p>		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校給食衛生管理基準に適合した施設での給食提供が可能となる。</li> <li>既設センターの統廃合により、施設管理経費と運営経費の削減につながる。</li> <li>児童・生徒や保護者等に対する食育等をセンター内で実施することができる。</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内4ヶ所の給食センターで給食事業を実施することになるため、給食提供センターが変更となる学校の保護者や学校関係者に、事業内容を説明し理解を求める。</li> <li>地域産物の使用を促進するため、納入事業者や農家会等との協議が必要である。</li> <li>センター廃止となる地域の食材の納入事業者への対応も検討が必要である。</li> </ul>		

		分 野	1. 学校教育の充実
項 目	(2) 教育環境の整備	担当部課	教育指導部 教育指導課
点検・評価対象事業名	①英語指導助手招へい事業		
対象事業において支出した金額	41,492 千円		
事業の目的	<p>外国語指導助手(ALT)を小・中学校に派遣し、外国語活動や外国語の授業補助を行うことを通して、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上と国際理解教育の充実を図る。</p>		
事業の実施状況	<p>・中学校の規模に応じて、月に1～4週間程度、ALTを派遣している。指導案や教材作りから英語科教員と関わり、指導法の工夫改善に取り組んでいる。授業以外にも学校行事をはじめとする諸活動に参加し生徒はもちろん教職員とも関わりながら、コミュニケーションを図っている。</p> <p>・毎年9月に行われている「横手市中学校英語暗唱弁論大会」に出場する生徒の指導に当たっている。</p> <p>・「英語検定」の2次試験(英語による面接)等を受験する生徒に対する指導を行っている。</p> <p>・小学校では高学年を中心に、年間20時間を上限に、学級担任とのチーム・ティーチングによる外国語活動の授業を行った。1年生から4年生の英語活動の指導にも当たっている。</p> <p>・市教育委員会主催の「小学校外国語活動研修会」において、学級担任等の指導力向上を図るため、新規に来日した5名のALT全員を研修会に参加させた。</p> <p>・年4回のALT研修会では、全員が持ち回りで授業実践に関する発表を行い、指導力向上を図った。</p>		
事業の効果等	<p>・中学校ではコミュニケーション能力の基礎を養うために、ALTを有効に活用している。生徒がALTとコミュニケーションを図ることにより、英語学習への意欲が高まっているほか、授業以外の諸活動を通したALTとの関わりが、日常生活レベルの国際交流となっている。</p> <p>・夏季休業中や放課後もALTが積極的に「英語暗唱弁論大会」や「英語検定」に向けての指導補助に当たっている。自然な英語表現や発音等の指導により、英語科教員の大きな手助けとなっている。</p> <p>・小学校外国語活動では、英語の音声や表現の面だけでなく、体験的な異文化理解を推進しコミュニケーションへの積極的な態度を養っていく上でALTが欠かせない存在となっている。各学校からのALTの派遣希望が非常に多い。</p> <p>・「小学校外国語活動研修会」ではグループの話し合いに1名ずつALTが加わり、模擬授業の具体的なアイデアを交換するなどして研修を進め、参加者の外国語活動指導に対する積極的な取組を促す一助となった。</p> <p>・中学校配置を基本とするALTが当該中学校区の小学校外国語活動に加わったことで、児童生徒の理解が進み、中学校における英語学習への円滑な移行が見られるようになってきた。</p> <p>・ほとんどの学校で、校内にALTが担当する掲示板を設置しており、季節や行事に合わせた英語による掲示物等が、生徒の異文化理解を促進する効果的な学習環境となっている。また、ALTが独自に季刊会報を発行し、各小・中学校に掲示することで、ALTと教師間、ALTと児童生徒間の相互理解を深める一助となっている。</p>		
今後の課題・改善策	<p>・市内中学校の統合により、平成24年8月から外国語指導助手の総数が1名減となる。平成23年度全面実施となった小学校外国語活動では学級担任を核とした、外国語指導助手とのチーム・ティーチングによる指導が望ましいことから、小学校担当のALTのみならず、中学校に配置されているALTも派遣して弾力的な活用を行って指導の充実を図りたい。</p> <p>・小学校外国語活動のねらいや指導法について、ALTに対する研修をさらに充実させ、より効果的なチーム・ティーチングができるようにしていく。</p> <p>・現在のALT派遣体制の成果から、地域人材の指導者活用が喫緊の課題とはならなかったが、ひらかれた学校づくりの観点から、地域の人材活用等についても検討を進めたい。</p>		

		分野	1. 学校教育の充実																
項目	(2) 教育環境の整備	担当部課	教育指導部 学校教育課																
点検・評価対象事業名	②奨学金貸付事業																		
対象事業において支出した金額	38,363 千円																		
事業の目的	<p>修学の意欲があるにもかかわらず経済的な理由により修学が困難な学生に学資を貸し付け、社会の有用な人材を育成する。</p>																		
事業の実施状況	<p>○貸し付け状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規25人、継続者60人、計85人に対し貸付を実施した。</li> <li>・地域内訳 <table border="0"> <tr><td>横手</td><td>20人</td></tr> <tr><td>増田</td><td>12人</td></tr> <tr><td>平鹿</td><td>14人</td></tr> <tr><td>雄物川</td><td>13人</td></tr> <tr><td>大森</td><td>6人</td></tr> <tr><td>十文字</td><td>17人</td></tr> <tr><td>大雄</td><td>1人</td></tr> <tr><td>山内</td><td>2人</td></tr> </table> </li> <li>・貸付額 38,040 千円</li> </ul> <p>○滞納対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電話や訪問による納付相談の実施。</li> <li>・必要に応じ連帯保証人への履行を求める。</li> </ul>			横手	20人	増田	12人	平鹿	14人	雄物川	13人	大森	6人	十文字	17人	大雄	1人	山内	2人
横手	20人																		
増田	12人																		
平鹿	14人																		
雄物川	13人																		
大森	6人																		
十文字	17人																		
大雄	1人																		
山内	2人																		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸付の実施により社会の有用な人材育成ができた。</li> <li>・滞納者への電話及び訪問を粘り強く行った結果、収納率の向上が図られた。</li> <li>・収納率 <table border="0"> <tr><td>H21</td><td>28.1%</td></tr> <tr><td>H22</td><td>31.5%</td></tr> <tr><td>H23</td><td>25.5%</td></tr> </table> </li> </ul>			H21	28.1%	H22	31.5%	H23	25.5%										
H21	28.1%																		
H22	31.5%																		
H23	25.5%																		
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の経済状況にもよるが、適切な審査と貸付実行を行う。</li> <li>・滞納者への文書、電話による納付相談並びに自宅訪問により、納付意識の喚起を図る。</li> <li>・訪問と同時に納付計画の確実な履行を求めていく。</li> </ul>																		

		分野	1. 学校教育の充実
項目	(2) 教育環境の整備	担当部課	教育総務部 教育総務課
点検・評価対象事業名	③就園奨励事業		
対象事業において支出した金額	22,438 千円		
事業の目的	<p>保護者の所得状況に応じて経済的負担を軽減するとともに、公・私立幼稚園間における保護者負担の格差の是正を図ることを目的として、入園料及び保育料を軽減している。</p>		
事業の実施状況	<p>対象幼稚園数 市内4幼稚園  (上宮第一幼稚園・上宮第二幼稚園・土屋幼稚園・こひつじ幼稚園)  市外2幼稚園  (湯沢若草幼稚園・双葉幼稚園)</p> <p>対象園児数 206名(被災幼児3名含む)  内訳 満3歳児 17名(当該年度中に満3歳となる幼児)  3歳児 59名(年少)  4歳児 74名(年中)  5歳児 56名(年長)</p> <p>○特定財源「幼稚園就園奨励費補助金」(国) 5,260千円  ○特定財源「被災幼児就園支援事業補助金」(県) 298千円</p>		
事業の効果等	<p>保護者の経済的負担の軽減と、公・私立幼稚園間の保護者負担の格差是正が図られた。また、安心して子どもを就園させることができた。</p>		
今後の課題・改善策	<p>就学前教育の重要性並びに子育て支援の観点から、引き続き所要の助成を行っていく。</p>		

		分野	1. 学校教育の充実
項目	(2) 教育環境の整備	担当部課	教育総務部 教育総務課
点検・評価対象事業名	④すこやか子育て支援事業(ひとり親家庭児童保育援助費補助事業含む)		
対象事業において支出した金額	10,821 千円		
事業の目的	<p>社会全体で子育てを支えていくという考えのもと、子どもの保育所等への入所に伴う子育て家庭の経済的負担を軽減するため、保育料等(入園料、保育料、教材費、絵本代、給食費など)の減免を行い、安心して子どもを生み育てることができる環境を整える。</p>		
事業の実施状況	<p>対象幼稚園数 市内4幼稚園  (上宮第一幼稚園・上宮第二幼稚園・土屋幼稚園・こひつじ幼稚園)  市外2幼稚園  (湯沢若草幼稚園・双葉幼稚園)</p> <p>対象園児数 160名(被災幼児1名含む)  内訳 満3歳児 13名(当該年度中に満3歳となる幼児)  3歳児 38名(年少)  4歳児 60名(年中)  5歳児 49名(年長)</p> <p>○特定財源「保育料助成事業費補助金」(県) 6,303千円  ○特定財源「ひとり親家庭児童保育料助成事業費補助金」(県) 172千円</p>		
事業の効果等	<p>子育て家庭の経済的負担を軽減することにより、安心して子どもを生み育てることができる環境整備ができた。</p>		
今後の課題・改善策	<p>就学前教育の重要性並びに子育て支援の観点から、引き続き所要の助成を行っていく。また、家庭事情により市外の幼稚園へ就園するケースもあり、対象者への情報提供に努める。</p>		



		分野	1. 学校教育の充実
項目	(2) 教育環境の整備	担当部課	教育指導部 学校教育課
点検・評価対象事業名	⑤学校保健管理事業		
対象事業において支出した金額	45,499 千円		
事業の目的	<p>学校保健安全法に基づき、児童生徒及び教職員の健康の保持増進を図り、学校教育を円滑に行うために、児童生徒及び教職員の健康状態の正しい実態を把握するとともに、健康状態の実態を踏まえた指導、教育を行う。</p>		
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校医の委嘱及び報酬の支払い。</li> <li>・児童生徒及び教職員の各種検診の実施及び業務委託。</li> <li>・就学時健康診断の実施及び事後措置。</li> <li>・小児生活習慣病予防健診の実施。</li> <li>・各種検診に係る関係機関との日程調整の実施。</li> <li>・老朽化で使用不能となった聴力検査機器を年次的に更新し、所有していない学校へ貸出す。</li> <li>・主な経費 <ul style="list-style-type: none"> <li>・報酬 24,002 千円</li> <li>・委託料 19,757 千円</li> <li>・使用料及び賃借料 1,019 千円</li> <li>・備品購入費 300 千円</li> </ul> </li> </ul>		
事業の効果等	<p>児童生徒及び教職員の健康保持増進により、学校教育の円滑な実施が図られた。</p>		
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合併による地域格差の是正。</li> <li>・児童生徒及び教職員の健康管理は重要であり、継続して実施する必要がある。</li> </ul>		

		分野	1. 学校教育の充実
項目	(2) 教育環境の整備	担当部課	教育指導部 教育指導課
点検・評価対象事業名	⑥教育相談		
対象事業において支出した金額	2,348 千円		
事業の目的	<p>学校や家庭における人間関係の希薄化、価値観の多様化及びコミュニケーションの不足等に伴って、悩みや不安を抱える児童生徒が増えていることから、不登校適応指導教室「南かがやき教室」に教育相談員を配置し、児童生徒が悩みを打ち明けられる場所を提供するとともに相談に応じる。また専任指導員と連携しながら学校復帰を目指し入級している児童生徒に対する支援を行う。</p>		
事業の実施状況	<p>・児童生徒、保護者だけでなく、教職員、専門機関職員等の相談にも応じている。  ・内容は不登校、いじめ、友人関係、家族関係、教師との関係、本人の性格・行動、進路に関するものが多い。  ・教育相談とは別に、見学者・体験入級者(保護者含む)を随時受け入れており、その対応・相談件数は、平成23年度内で延べ176人である。</p> <p>平成23年度実績 教育相談件数  電話相談 386件  面接相談 183件  合計 569件 (注)複数相談者及び一人で複数回の相談を含む。</p>		
事業の効果等	<p>本事業の内容が各学校に広く浸透し利用しやすくなってきたこともあり、児童生徒及びその保護者の相談は学校による偏りがなく、幅広く利用されている。教育相談を通じて心の悩みが解消したおかげで、学校生活を一層充実させ、前向きな生活を送ろうとする児童生徒も多くなっている。</p>		
今後の課題・改善策	<p>ここ数年、相談内容が主に家庭環境や生活環境に起因するものが増加してきている。そうした問題解決のためには、教育相談員が単独で対応するだけでなく、必要に応じて保健機関や医療機関等との連携を図っていくための体制づくりを更に進めていく必要がある。  また、中学校における進路についての相談は、不登校、いじめ、友人関係等との複合的な内容が多く、各学校との連携をこれまで以上に重視していく必要がある。</p>		

		分野	1. 学校教育の充実																								
項目	(2) 教育環境の整備	担当部課	教育指導部 教育指導課																								
点検・評価対象事業名	⑦「心の教室相談」事業																										
対象事業において支出した金額	507 千円																										
事業の目的	<p>中学生による問題行動の続発が社会問題になっているが、こうした問題行動を起こす要因の一つとして、生徒たちに悩みや不安、ストレス等がたまっていることが考えられる。また、いじめや不登校の問題も憂慮すべき状況にある。</p> <p>このため、生徒の身近にいて、生徒が悩み等を気軽に話せ、ストレスを和らげることのできる「心の教室相談員」を中学校に配置し、生徒が心のゆとりをもつことができるような相談活動の充実に資する。</p>																										
事業の実施状況	<p>鳳中学校と十文字中学校に相談員各1名を配置。原則として週2回、生徒の相談に当たり、生徒の不安やストレスの解消、学校の相談体制の充実に図った。</p> <p>&lt;平成23年度実績&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>相談内容</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>不登校</td><td>52</td></tr> <tr><td>いじめ</td><td>1</td></tr> <tr><td>友人関係</td><td>25</td></tr> <tr><td>学業全般</td><td>18</td></tr> <tr><td>進路</td><td>13</td></tr> <tr><td>性格・行動</td><td>14</td></tr> <tr><td>部活動</td><td>2</td></tr> <tr><td>家庭問題</td><td>6</td></tr> <tr><td>発達障害</td><td>1</td></tr> <tr><td>その他</td><td>42</td></tr> <tr><td>計</td><td>174</td></tr> </tbody> </table>			相談内容	件数	不登校	52	いじめ	1	友人関係	25	学業全般	18	進路	13	性格・行動	14	部活動	2	家庭問題	6	発達障害	1	その他	42	計	174
相談内容	件数																										
不登校	52																										
いじめ	1																										
友人関係	25																										
学業全般	18																										
進路	13																										
性格・行動	14																										
部活動	2																										
家庭問題	6																										
発達障害	1																										
その他	42																										
計	174																										
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談に来る生徒は固定化する傾向にあるが、心の教室相談員はその生徒たちの思いを受けとめ、じっくりと聴く姿勢で接しているため、生徒が本音を打ち明けることができた。</li> <li>・心の教室相談員による受容的な対応は、別室登校の生徒たちの安心感を大いに高めた。</li> <li>・心理的な安定感を求めて保健室に来室する生徒の悩みを心の教室相談員が聞き出すことにより、学年・学級での個別指導へとつながった。</li> </ul>																										
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケースによってはカウンセラーによる専門的な対応が必要な場合があり、外部機関との連携が課題である。</li> </ul>																										

		分野	1. 学校教育の充実
項目	(2) 教育環境の整備	担当部課	教育指導部 教育指導課
点検・評価対象事業名	⑧不登校適応指導教室事業		
対象事業において支出した金額	1,630 千円		
事業の目的	<p>長期欠席の児童生徒の学校復帰を支援するとともに、長期欠席の児童生徒をもつ保護者の支援に当たるため、専任指導員を配置した横手市不登校適応指導教室「南かがやき教室」を設置する。</p>		
事業の実施状況	<p>・不登校の児童生徒に悩みを打ち明けることができる場所を提供するとともに、児童生徒の立場に立ち、人格や人命を尊重した人間味のある温かい相談、適応指導を行っている。</p> <p>・共感的な理解に立ちつつ、児童生徒の自立を支援する立場で相談を行っている。</p> <p>・各教科等の学習指導に関しては、在籍校とも連絡をとりながら児童生徒の実情に応じた学習内容を適切に定め、個別指導を中心としている。その際、児童生徒の実態に応じて集団指導や体験的な活動も取り入れている。</p> <p>【平成23年度の体験的な活動の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なべっこ遠足(かがやき教室敷地内)</li> <li>・クリスマスケーキ作り(調理室)</li> <li>・土器修復作業(教育センター)</li> <li>・専門家による折り紙教室</li> <li>・ダンス講師によるハワイアン教室</li> <li>・かがやき祭(地域及び保護者対象) など</li> </ul> <p>・不登校児童生徒の保護者に対して、不登校の態様に応じた適切な助言と支援を行っている。</p> <p>平成23年度実績 入級者数 19名(小学校1名, 中学校18名) (中学生12名が平成23年度新規通級者, 7名が学校復帰)</p>		
事業の効果等	<p>・不登校児童生徒は、通級することで心の居場所を学校外でも得ることができた。また、教室での関わりの中で児童生徒及び保護者が前向きになり、学校復帰や高校進学などに向かうことができた。</p> <p>・不登校児童生徒の態様に応じた支援のため在籍校との緊密な連携を行うことができた。また、学校復帰後においても、必要に応じて在籍校との連携を図り、継続的に支援を行うことができた。</p> <p>・児童生徒の個々の回復状況をアセスメントに沿って把握することで、在籍校や保護者と学校復帰に向けての連携を図ることができた。ただし、在籍校への学習成果等の連絡については、本人や保護者の意向を確かめながら守秘義務に十分配慮した。</p> <p>・不登校に関して、学校や保護者に対する専門的な指導、助言、啓発を行うことができた。</p>		
今後の課題・改善策	<p>・不登校となる要因が多様化していることから、学校や適応指導教室だけでは対応しきれない状況にある。学校復帰ができた児童生徒の事例から、他機関との連携等による体験的な活動等が効果的だったので、引き続き諸関係機関と連携しながら、そのような機会をつくっていく。</p> <p>・適応指導教室に通級する児童生徒の増加及び不登校児童生徒の態様の多様化に伴い、指導員数の増員等も課題となるが、予算面から即実現は難しいため、今後も粘り強く折衝していく。また、多様な要因への適切な指導、支援を行うために、専門的な知識、経験を有する医師やカウンセラーから継続的に助言が得られる体制、福祉、医療関係等の担当者との連携をより一層重視していく。</p>		

		分野	1. 学校教育の充実
項目	(2) 教育環境の整備	担当部課	教育指導部 教育指導課
点検・評価対象事業名	⑨ 学校生活サポート事業		
対象事業において支出した金額	51,206 千円		
事業の目的	<p>小・中学校において、特別な教育的支援を必要とする児童生徒及び日本語指導支援を必要とする児童生徒に対して支援員(非常勤職員)を配置し、学校生活の支援を行う。</p> <p>【特別支援教育支援員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい等により特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対し、学校生活を送るために必要な支援を行う。</li> </ul> <p>【日本語指導支援員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語が不自由な帰国子女や外国籍の児童生徒に対し、学校生活を送るために必要な日本語指導や生活習慣等の支援を行う。</li> </ul>		
事業の実施状況	<p>【特別支援教育支援員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・20校に39名の特別支援教育支援員を配置(小学校17校36名、中学校3校3名)</li> <li>・対象となる児童生徒は約140名(小学校約120名、中学校約20名)</li> <li>・各校児童生徒の実態に応じた支援員の適正配置のため、特支専任指導主事による配置校訪問や就学時健診の立会いによる実態把握、各校の支援対象児童生徒調査や配置要望調査を実施</li> </ul> <p>【日本語指導支援員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝倉小学校に2名、鳳中学校に2名の日本語指導支援員を配置</li> <li>・対象となる児童生徒は8名(朝倉小学校5名、鳳中学校3名)</li> </ul>		
事業の効果等	<p>【特別支援教育支援員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内支援体制の整備、学級担任と支援員との連携等により、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対し、実態に応じた適切な支援を行うことができた。</li> <li>・学級担任の負担を軽減することができ、学級担任による他の児童生徒への指導の充実、円滑な学級運営等を図ることができた。</li> </ul> <p>【日本語指導支援員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語指導が必要な児童生徒の様々な不安を軽減し、安定した学校生活を送ることができるようになった。</li> <li>・児童生徒間の交流を促進する担い手となり、異文化に対する興味・関心を高めたり、理解を促進したりすることができた。</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<p>【特別支援教育支援員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な教育的支援を必要とする児童生徒が増加傾向にある。特に、通常の学級に在籍しながら特別な教育的支援を希望する保護者のニーズが高くなっている。</li> <li>・特別支援教育支援員の人材確保及び要支援児童生徒在籍校への適切な配置をより一層進める必要がある。</li> <li>・今年度も、横手市と秋田大学の共催による横手市特別支援教育研修会を実施予定。</li> </ul> <p>【日本語指導支援員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語指導支援の対象となる児童生徒の国籍は、中国、インド、フィリピンであり、母国語も異なる。日本語を指導する上で、これら児童生徒の母国語を理解する必要があり、日本語指導支援員には専門性が求められる。今後は、ハローワーク等の関係機関とさらに連携し、専門性を有する人材を確保する必要がある。</li> </ul>		

		分野	1. 学校教育の充実
項目	(2) 教育環境の整備	担当部課	教育指導部 教育指導課
点検・評価対象事業名	⑩次世代ものづくり人材育成事業		
対象事業において支出した金額	138 千円		
事業の目的	<p>理科離れや若年層の高い離職率が危惧される今日、これまでの日本の産業を支えてきた「ものづくり」の技術とその土台となる「科学」に対する子どもたちの興味・関心を高めることは重要な今日的課題の一つである。そこで、地域人材や理科教員等の支援を受けて観察・実験やものづくりなどの活動の充実を図ること、製造業をはじめとする各種職業のもつ高度な技術を見学したり、実際に現場で体験する活動(職場体験学習)を行ったりすることが大切になる。このようなものづくりを中心とした理科的な学習、職業に関する学習が子どもたちの望ましい職業観や勤労観の育成につながることを目指している。</p>		
事業の実施状況	<p>○科学お楽しみ広場  児童の科学に対する興味・関心を高め、観察・実験やものづくりなどの活動に親しむ場を設けるとともに、理科教員の理科の指導力向上を図るための研修の場として実施。  ※平成23年度は朝倉小学校を会場(7/26:夏休み中)に、科学実験等11ブースを設けて実施。  ※横手市内の小学3～6年生を対象にし、171名の児童が参加。</p> <p>○職場体験受入事業所(“未来体験”応援団)の整備  教育委員会が中心となり、関係行政機関や商工会と連携して体験活動ネットワークを整備。  ※平成23年度職場体験受入登録事業所(“未来体験”応援団)数は、159事業所。</p> <p>○小学生職場見学バスツアー  職場で働く人々とのふれ合いを通して、児童の仕事に対する関心を高めるとともに、望ましい職業観・勤労観の育成を図るために実施。  ※横手市内の小学3～6年生を対象にし、多数の応募の中から選ばれた36名の児童が参加。</p>		
事業の効果等	<p>○科学お楽しみ広場  ・実施後の参加児童のアンケート結果によると、約9割の児童が「とても楽しかった」と回答しており、児童の95%が「また参加したい」と答えた。  ・市内の理科教員による企画実験の他、博士号教員や秋田大学社会貢献推進室等と連携しながら最新の科学に触れる場を用意し、児童の知的好奇心の高揚を図ることができた。</p> <p>○職場体験受入事業所(“未来体験”応援団)の整備  ・市内全中学校が夏休みを中心とした職場体験学習の際に登録事業所を活用し、1校あたり平均2.5日間実施した。また、受入事業所は、地域密着型の事業所として社会貢献活動を行うことができ、参加生徒を通して事業所の認知度と企業価値を高めることができた。</p> <p>○小学生職場見学バスツアー  ・実施後の参加児童のアンケート結果によると、86%の児童が「とても楽しかった」「また参加したい」と回答した。またツアーに参加したことによって、今後の目標が明確になったと答える児童が78%に達した。</p>		
今後の課題・改善策	<p>○科学お楽しみ広場について  ・電子工学等の製造業のもつ高度な技術に触れる場を提供するためにも、横手市内の企業とも連携するなど、地域人材の支援を広く受けながら観察・実験やものづくりなどの活動の充実を図る。</p> <p>○小・中一貫したキャリア教育の推進について  ・各校における系統性をもったキャリア教育の指導計画の作成が県教委の指導により進められたことに伴い、市としてのキャリア教育の目標や小・中における指導の段階性等を明確化することに着手しているが、職場見学・体験の事業の位置付けも含めた整備はまだ不十分である。各校の計画整備への指導・助言と併せて、児童生徒の発達段階に応じた「職業観・勤労観の育成」に関わる市全体の目標等を明確にしていきたい。</p>		

		分野	1. 学校教育の充実
項目	(2) 教育環境の整備	担当部課	教育指導部 教育指導課
点検・評価対象事業名	⑪スクールガード・リーダー配置事業		
対象事業において支出した金額	761 千円		
事業の目的	<p>学校や通学路における事件・事故が大きな問題となっていることから、地域の学校安全ボランティアを活用するなどして地域社会全体で学校安全に取り組むことが求められている。そこで、3名のスクールガード・リーダーを市内に配置し、学校の安全体制に対する指導・助言や学校安全ボランティアの見守り活動への支援を行う。</p>		
事業の実施状況	<p>○担当地区を決め、月1回程度(3人で年間延べ174日、他に県事業として90日)各小学校を訪問し指導した。主な指導内容は次のとおりであるが、内容や期日等については、各校の希望を調整しながら決定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の安全体制の評価と指導(校舎・通学路の安全点検を含む)</li> <li>・登下校時における児童への指導</li> <li>・防犯・防災避難訓練、交通安全教室等における児童への指導講話</li> <li>・県内不審者事案や学区内危険箇所等の情報提供及び不審者遭遇時の対応指導</li> <li>・スクールガード養成講習会(8月)での話題提供</li> </ul> <p>○スクールガード・リーダー情報交換会(7月、12月、3月の年3回)に参加し、各校の安全体制及び指導内容等について情報交換するとともに、今後の対応等について協議した。</p>		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールガード・リーダーが通学路の安全点検等を行った後、その結果を各校に伝え改善を求めたり、関係機関に改善を働きかけたりしたことが、事故・事件等の未然防止につながっている。</li> <li>・学校安全ボランティアに対して不審者事案や危険箇所等の情報提供及び不審者対応等の指導をしたり、保護者にも参加を呼びかけ防犯教室を実施したりするなど、学校安全ボランティアの養成・研修につながる取組を行う学校が増えてきている。平成23年度のスクールガード養成講習会には約60名が参加した。</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校安全ボランティアの登録人数及び構成は、学校によって違いが大きい。そのため、スクールガード・リーダーの助言等により、学校の実態に応じた学校安全ボランティアの養成・研修に努めなければならない。</li> <li>・学校安全ボランティアの登録者数が伸び悩んでいる。学校によってはボランティアの高齢化が進むとともに、新規の参加者不足に悩まされている。見守り活動の重要性を広く周知する手立てを図る必要がある。</li> <li>・各校における見守り活動については、県警のスクールサポーター事業も導入され、スクールガード・リーダーとの連携が図られるようになった。これを機に、児童の危険予測能力・回避能力を高める指導の充実に図りながら、これまで以上に地域安全マップの作成、防犯教室の開催等を支援していく必要がある。</li> </ul>		

		分野	1. 学校教育の充実
項目	(2) 教育環境の整備	担当部課	教育指導部 教育指導課
点検・評価対象事業名	⑫「言語活動の充実」に係る研究指定事業		
対象事業において支出した金額	307 千円		
事業の目的	<p>各校の教育活動における言語活動を充実させ、各教科等における言語に関する総合的な取組を進めることにより、本市児童生徒の確かな学力の育成を図るものであり、標記事業に関する研究実践の情報交換、相互交流を学校間で行うことで事業の成果と課題が共有化されることを目指している。これにより、本市全小中学校が共通の目的意識と自信をもって、新学習指導要領に基づく質の高い教育実践を推進を進めることができるようにする。</p>		
事業の実施状況	<p><b>【推進校からの情報発信】</b>          全市指定推進校である横手南中学校、十文字中学校における市内中学校全職員および希望する市内小学校職員参加の公開研究会(11/11)の開催により、自校の特性や実践的課題を踏まえた研究成果の情報発信が市内外に広くなされた。</p> <p><b>【研究紀要等による成果の発信・共有化】</b>          3年間の事業の集大成として全市指定推進校6校による研究実践のまとめを始め、他の全小・中学校に「言語活動の充実」に向けた自校における実践の報告等を市の研究紀要にして発行した。</p>		
事業の効果等	<p><b>【公開研究会等による情報の共有化】</b>          全市指定校の公開研究会の開催により、推進校による研究の成果と課題及び「言語活動の充実」が市内各小・中学校に浸透し、新学習指導要領に基づく質の高い教育実践に向けて足場を固めることができた。</p> <p><b>【推進校における研究実践の成果】</b>          指導主事訪問、校内研究会等を通じて、「言語活動の充実」を中核に据えた学校教育課程の改善、指導方法の工夫に関する研究が進み、言語活動を切り口にして確かな学力を身に付けさせるための授業改善が図られた。横手南中学校では、読解力向上の指導のプロセスの「発信」の重視、「見える化」「電子黒板の活用」、十文字中学校では、言語活動の充実を目指す授業構築の実践的なポイントの提案等を主眼とした授業公開が実施され、市内各校の授業改善の指針となった。          また、特に「電子黒板の活用」については、横手南中学校を会場(8/3)に市内全小・中学校から1名ずつ参加して講義・演習を含む研修会を実施し、市内各校で電子黒板活用に関する情報の共有化が図られた。</p>		
今後の課題・改善策	<p><b>【推進校の評価に基づく課題】</b>          ・思考力、判断力、表現力等の育成を目指すためにも、基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る学習活動を推進すること。          ・「言語活動の充実」や習得と活用に着眼した学習活動の推進を図る上で、学校図書館経営の充実を目指す必要があること。</p> <p><b>【改善策】</b>          ・これまで3年間継続してきた本事業の成果と課題を踏まえての、言語活動の充実による確かな学力の育成を目指した本市独自の研究指定事業の実施。(平成24～26年度)          ・言語活動の充実に資する学校図書館の有効活用に関する研修会の実施。(年2回予定)</p>		



		分野	1. 学校教育の充実
項目	(2) 教育環境の整備	担当部課	教育指導部 教育指導課
点検・評価対象事業名	⑬就学前言語障害児指導事業		
対象事業において支出した金額	2,477 千円		
事業の目的	<p>就学前の幼児を対象に、主にことばの発達に関する指導支援を行い、関係機関との協力や連携を図りながら、子どもの発育・成長及び保護者の子育てを支援する。</p>		
事業の実施状況	<p>○対象児</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として横手市に居住する就学前の言語発達障害児</li> </ul> <p>○実施場所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横手市醍醐公民館1階「幼児ことばの教室」</li> </ul> <p>○実施時間及び期間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には午前9時から午後4時までとし、火曜日から金曜日まで週4日間開設をする。小中学校の夏季・冬季休業中は開設をしない。</li> <li>・個別の指導日等については指導員と協議の上決定する。</li> </ul> <p>○面接した幼児(平成23年度) 37名  (内訳)通級対象とした幼児 17名  経過観察とした幼児 20名</p>		
事業の効果等	<p>○通級対象幼児17名について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H23年度で指導終了 11名</li> <li>・H24年度も指導継続 6名</li> </ul> <p>○経過観察幼児20名について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H23年度で観察終了 8名</li> <li>・H24年度も観察継続 12名</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横手市児童デイサービス事業「モモの家」との連携を図る必要がある。定期的に情報交換の場を設けるなど、情報の共有化に努めたい。</li> <li>・3～4歳児に対する効果的な指導の在り方、発達障害等が疑われる幼児への指導・相談の在り方に難しさがある。専門性を有する言語指導員の確保に努めたい。</li> </ul>		

		分野	1. 学校教育の充実
項目	(2) 教育環境の整備	担当部課	教育指導部 学校教育課
点検・評価対象事業名	⑭通学援助		
対象事業において支出した金額	3,798 千円		
事業の目的	<p>スクールバスが運行されていない地域の児童生徒の通学に要する経費を補助し、通学上の安全確保及び義務教育の円滑な実施を図る。</p>		
事業の実施状況	<p>○朝倉小学校 路線バスの定期購入額について、利用する路線の距離に応じ補助。 (3km以上 全額、3km未満 半額) 対象者27人 808 千円</p> <p>○雄物川北小学校 路線バスの定期購入額について、利用する距離に応じ補助。 (4km以上 全額、4km未満及び冬季上大見内 半額) 対象者30人 1,373 千円</p> <p>○雄物川中学校 通学距離が6km以上 年額22,000円を補助。 対象者16人 352 千円</p> <p>○山内中学校 路線バスの定期購入額について、片道2,500円、往復5,000円を超える部分の全額を補助。 鉄道を利用して通学するための定期購入額 対象者16人 1,114 千円</p> <p>○その他 通学距離が小学校4km 中学校6km以上で交通機関の定期乗車券を購入利用者 半額を補助。 対象者13人 151 千円</p>		
事業の効果等	<p>児童生徒の登下校の安全確保及び義務教育の円滑な実施が図られた。</p>		
今後の課題・改善策	<p>補助金だけの問題ではなく、学校統合も視野に入れた市全体の通学援助体制の検討が必要である。</p>		

		分野	1. 学校教育の充実
項目	(2) 教育環境の整備	担当部課	教育指導部 学校教育課
点検・評価対象事業名	⑮特別支援教育就学奨励		
対象事業において支出した金額	2,963 千円		
事業の目的	特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者の経済的な負担軽減を図る。		
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食費 半額</li> <li>・通学費 公共交通機関を利用し、最も経済的な方法で通学する場合の交通費 全額</li> <li>・修学旅行費 均一に負担すべき経費 半額</li> <li>・校外活動費 学校行事として参加し、一律に負担する経費 半額</li> <li>・学用品費 通常必要とする学用品 国が定める基準の半額</li> <li>・新入学用品費 入学者が通常必要とする学用品、通学用品費 国が定める基準の半額</li> <li>・通学用品費 2学年以上の通常必要とする通学用品 国が定める基準の半額</li> <li>・体育実技用具費 通常必要とする体育実技用品 半額</li> <li>・対象者 小学校60人 1,983 千円</li> <li style="padding-left: 2em;">中学校18人 980 千円</li> </ul>		
事業の効果等	特別支援学級に就学する児童生徒の保護者の負担軽減及び義務教育の円滑な実施が図られた。		
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世帯の収入等に応じて援助するものであり、毎年実情を適切に把握し、継続して援助していく必要がある。</li> <li>・今後の経済状況から増加が予想される。</li> </ul>		

		分野	1. 学校教育の充実																								
項目	(2) 教育環境の整備	担当部課	教育指導部 学校教育課																								
点検・評価対象事業名	⑩ 要保護及び準要保護就学援助																										
対象事業において支出した金額	40,983 千円																										
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の経済的理由により就学が困難な児童生徒の保護者に対し、教育に必要な扶助を行う。</li> <li>・東日本大震災の影響により、横手市立小中学校に区域外就学等で就学している児童生徒で、就学が困難な児童生徒の保護者に対し、教育に必要な扶助を行う。(全額国の補助対象)</li> </ul>																										
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学用品費 国が定める基準額</li> <li>・通学用品費 国が定める基準額</li> <li>・校外活動費 国が定める基準を上限として一律に徴収する経費</li> <li>・新入学用品費 国が定める基準額</li> <li>・体育実技用具費 国が定める基準を上限として学校長から現物を支給</li> <li>・修学旅行費 均一に負担すべき経費</li> </ul> <table border="0"> <tr> <td>対象者</td> <td>小学校要保護</td> <td>24人</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>小学校準要保護</td> <td>301人</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td>325人</td> <td>22,647 千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中学校要保護</td> <td>17人</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>中学校準要保護</td> <td>175人</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td>192人</td> <td>18,336 千円</td> </tr> </table>			対象者	小学校要保護	24人			小学校準要保護	301人			計	325人	22,647 千円		中学校要保護	17人			中学校準要保護	175人			計	192人	18,336 千円
対象者	小学校要保護	24人																									
	小学校準要保護	301人																									
	計	325人	22,647 千円																								
	中学校要保護	17人																									
	中学校準要保護	175人																									
	計	192人	18,336 千円																								
事業の効果等	<p>家庭の経済的理由により就学が困難な児童生徒の保護者負担の軽減及び義務教育の円滑な実施が図られた。</p>																										
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世帯の収入等に応じて援助するものであり、毎年実情を適切に把握し、継続して援助していく必要がある。</li> <li>・今後の経済状況から増加が予想される。</li> <li>・被災者用の就学援助は、現時点で平成26年度までの時限補助であることから、今後の補助については国の対応に委ねることとなる。</li> </ul>																										

		<b>分野</b>	1. 学校教育の充実
<b>項目</b>	(2) 教育環境の整備	<b>担当部課</b>	教育指導部 学校教育課
<b>点検・評価対象事業名</b>	⑰小中学校各種大会派遣事業		
<b>対象事業において支出した金額</b>	25,057 千円		
<b>事業の目的</b>	<p>教育の一環として児童生徒を各種大会等へ参加させるための経費を補助する。</p>		
<b>事業の実施状況</b>	<p>小中学校の体育連盟等が主催する大会や発表会等への参加に要する児童生徒及び引率教員の交通費、宿泊費及び参加料について補助をした。</p> <p>・小学校 2,598 千円 ・中学校 22,459 千円</p>		
<b>事業の効果等</b>	<p>・保護者の負担軽減と義務教育の円滑な実施が図られた。 ・競技意欲の向上と心身強化及び協調性の育成が図られた。</p>		
<b>今後の課題・改善策</b>	<p>・各種大会、発表会への参加のための安全な児童生徒の輸送。 ・スクールバスの地域配置によらない適切な配車計画による有効活用を図る。</p>		

		分 野	1. 学校教育の充実
項 目	(2) 教育環境の整備	担当部課	教育総務部 教育総務課
点検・評価対象事業名	⑱学校図書館活性化事業		
対象事業において支出した金額	36,887 千円		
事業の目的	<p>新学習指導要領の全面実施に向けた児童生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動の充実を支援するために、住民生活に光をそそぐ交付金を活用し、学校図書館の物的・人的整備を行う。</p>		
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館における図書購入の実施(小中学校全33校対象) <ul style="list-style-type: none"> <li>①購入経費 26,825千円 ②購入内訳 7,568冊、1,030組</li> </ul> </li> <li>・学校図書館に新聞(日刊)の配備を実施(中学校11校対象) <ul style="list-style-type: none"> <li>①各中学校に全国紙1紙、地方紙1紙を配備した。</li> <li>②配備経費 782千円</li> </ul> </li> <li>・学校図書館管理システムの導入(小中学校6校対象) <ul style="list-style-type: none"> <li>①旭小、浅舞小、雄物川北小、大森小、鳳中、雄物川中に学校図書管理システムを導入した。</li> <li>②導入経費 1,156千円</li> </ul> </li> <li>・学校司書補助員の配置(小中学校5校対象) <ul style="list-style-type: none"> <li>①学校司書補助員が配置されていない、旭小、雄物川北小、大森小、鳳中、雄物川中に学校司書補助員を配置した。</li> <li>②配置経費 8,124千円</li> </ul> </li> </ul>		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校全33校の学校図書館の蔵書整備が進んだ。</li> <li>・新学習指導要領において新聞を教材として活用することが位置づけられており、学校図書館に新聞を配備したことで、より効率的に授業が行われるようになった。</li> <li>・学校図書システムを導入した学校では、より効率的な学校図書館の運営を行えるようになった。また、今回、6校にシステムを導入したことにより、システム導入校は11校となった。</li> <li>・学校司書補助員を配置された学校では、学校図書館の蔵書の整理等が飛躍的に進むとともに、学校図書館の機能向上が図られたことで、児童生徒が本と親しむ機会が増えた。</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<p>平成23年度の学校司書補助員の配置については、市雇用者9名(うち交付金事業で5名、一般財源で4名雇用)、県費雇用者1名の計10名で12校を担当。平成24年度については、市雇用者9名(全額一般財源で雇用)で16校を担当している(県費の司書補助員につきましては、H23年度で予算措置が終了)。</p> <p>今後の司書補助員の配置については、学校統合や司書補助員の兼務学校数、市立図書館との連携を考慮しながら、全小中学校の学校図書館の機能向上が図られるよう、実施していきたい。</p>		

		分野		1.学校教育の充実																																																																											
項目	(2)教育環境の整備			担当部課	教育指導部 学校給食課																																																																										
点検・評価対象事業名		⑱学校給食事業																																																																													
対象事業において支出した金額		658,629 千円																																																																													
事業の目的		<p>各学校給食センターは、児童・生徒の心身の健全な発達に資するため、安全・安心でおいしい給食を提供することを目的とする。</p>																																																																													
事業の実施状況		<p>1日あたりの給食提供状況(H23.5.1現在)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">小学校</th> <th colspan="2">中学校</th> <th>教職員</th> <th>合計</th> <th>参考年合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>横手給食センター</td> <td>7</td> <td>1,810</td> <td>4</td> <td>877</td> <td>293</td> <td>2,980</td> <td>533,566</td> </tr> <tr> <td>増田給食センター</td> <td>1</td> <td>394</td> <td>1</td> <td>192</td> <td>61</td> <td>647</td> <td>112,853</td> </tr> <tr> <td>平鹿給食センター</td> <td>3</td> <td>631</td> <td>1</td> <td>382</td> <td>109</td> <td>1,122</td> <td>202,935</td> </tr> <tr> <td>雄物川給食センター</td> <td>5</td> <td>737</td> <td>1</td> <td>263</td> <td>125</td> <td>1,125</td> <td>200,167</td> </tr> <tr> <td>大森給食センター</td> <td>1</td> <td>273</td> <td>2</td> <td>321</td> <td>78</td> <td>672</td> <td>112,948</td> </tr> <tr> <td>十文字給食センター</td> <td>4</td> <td>723</td> <td>1</td> <td>371</td> <td>118</td> <td>1,212</td> <td>211,606</td> </tr> <tr> <td>山内給食センター</td> <td>1</td> <td>164</td> <td>1</td> <td>84</td> <td>44</td> <td>292</td> <td>51,250</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>22</td> <td>4,732</td> <td>11</td> <td>2,490</td> <td>828</td> <td>8,050</td> <td>1,425,325</td> </tr> </tbody> </table> <p>①1食あたりの給食費(小学校260円・中学校290円)  ②地場産物を活用した全市統一献立を実施した。  ③バイキング給食、行事食、郷土食を実施した。  ④出荷農家と栄養士が学校を訪問し、地場産野菜等の良さを伝えた。  ⑤給食費の滞納分について、各センターで通知、電話、訪問等で収納に努めた。  ⑥教育委員会事務局の各課職員で収納対策委員会を開催し、未納者宅の訪問を実施した。  ⑦2ヶ月以上滞納した場合は、学校の協力を得て学校集金を実施した。</p>							小学校		中学校		教職員	合計	参考年合計	横手給食センター	7	1,810	4	877	293	2,980	533,566	増田給食センター	1	394	1	192	61	647	112,853	平鹿給食センター	3	631	1	382	109	1,122	202,935	雄物川給食センター	5	737	1	263	125	1,125	200,167	大森給食センター	1	273	2	321	78	672	112,948	十文字給食センター	4	723	1	371	118	1,212	211,606	山内給食センター	1	164	1	84	44	292	51,250	合計	22	4,732	11	2,490	828	8,050	1,425,325
	小学校		中学校		教職員	合計	参考年合計																																																																								
横手給食センター	7	1,810	4	877	293	2,980	533,566																																																																								
増田給食センター	1	394	1	192	61	647	112,853																																																																								
平鹿給食センター	3	631	1	382	109	1,122	202,935																																																																								
雄物川給食センター	5	737	1	263	125	1,125	200,167																																																																								
大森給食センター	1	273	2	321	78	672	112,948																																																																								
十文字給食センター	4	723	1	371	118	1,212	211,606																																																																								
山内給食センター	1	164	1	84	44	292	51,250																																																																								
合計	22	4,732	11	2,490	828	8,050	1,425,325																																																																								
事業の効果等		<p>①児童・生徒の心身の発達のため、栄養バランスのとれた安心・安全な給食を提供できた。  ②地場産物を使用することにより、児童・生徒が食に興味を持ち、食の大切さの理解へとつながったほか、出荷農家との交流により、野菜についての関心が深まった。  ③収納対策委員による滞納者の納付相談等を実施することにより、滞納繰越分の収納実績額が増加した。H23年度7,148,011円。(H22年度6,316,190円)</p>																																																																													
今後の課題・改善策		<p>①安全・安心な給食を提供するため、今後も関係職員の衛生に関する研修を強化する。  ②地場産食材の使用率向上のため、関係機関・団体等と体制づくりを検討する。  ③給食費滞納者について、収納対策を検討するとともに、学校等関係団体との連携を強化する。</p>																																																																													

2 生涯学習の推進		分野	2. 生涯学習の推進
項目	(1) 生涯学習の基礎づくりへの支援	担当部課	教育総務部 生涯学習課
点検・評価対象事業名	① 家庭教育支援事業		
対象事業において支出した金額	360 千円		
事業の目的	<p>家庭での教育力向上を目的に、小学校やPTAなどと連携し、就学検診または入学説明会、保護者会など保護者が多く集まる機会を利用して子育て講座を開催する。また、父親の家庭教育参加促進を図るため親(父)子での体験活動や父親向けの子育て講座などを行う。</p>		
事業の実施状況	<p>① 学童期子育て講座 市内全小学校22校で開催。(参加者:延べ796人)</p> <p>② 父親の家庭教育参加促進講座 開催期日:3月4日、あさくら館を会場にお父さんの子育て講座「めざせ！イクメンパパ」を開催 内 容:親子での料理教室やレクリエーション等。 参加者:24人(父親9人、子ども15人)</p>		
事業の効果等	<p>・小学校での子育て講座は、就労している保護者も多いため、保護者が参加しやすいように保護者が集まる機会に開催日を設定しており、多数の参加者により実施することができた。</p> <p>・父親の家庭教育参加促進講座は、小学校で開催する子育て講座の参加者の多くが母親であることやワーク・ライフ・バランスを推進する観点から、父親向けに開催したものである。父親同士の交流を図りながら、日ごろの子育てや家庭教育について振り返り、父親がワークライフバランスを見直したり、地域や家庭での父親の役割を考える機会となった。</p>		
今後の課題・改善策	<p>・父親の家庭教育参加促進講座については、親子での体験活動の一環として開催しており、楽しく受講させることができた。今後は、より多くの父親が参加できるように、開催時期や内容等のさらなる検討が必要である。</p>		



		分野	2. 生涯学習の推進
項目	(1)生涯学習の基礎づくりへの支援	担当部課	教育総務部 生涯学習課
点検・評価対象事業名	②成人式開催事業		
対象事業において支出した金額	563 千円		
事業の目的	<p>満20歳になり、新たに大人の仲間入りをする新成人をお祝いするとともに、社会に対する義務と責任を担うことを自覚し、積極的に地域づくりへ参画してもらうきっかけづくりを目的に開催している。</p>		
事業の実施状況	<p>毎年8月15日に市民会館を会場に開催している。          新成人で実行委員会を組織し、準備段階から計画立案に携わっており、当日の受付・誓いの言葉は実行委員が担っている。          このため、多くの新成人が集まる式典であるが、特に混乱もなくスムーズに開催された。</p>		
事業の効果等	<p>成人式には、対象となる新成人の7～8割が出席し、来賓を合わせると約1,000名の参加による式典が開催されている。          式典における挨拶のほか、選挙や税などに関する啓発品を配布し、新成人としての自覚を意識付けできるようにしている。</p>		
今後の課題・改善策	<p>成人式の開催に対し、行政の関わり方や実行委員の自主性などを検討する時期にきている。</p>		

		分野	2. 生涯学習の推進
項目	(1)生涯学習の基礎づくりへの支援	担当部課	教育総務部 生涯学習課
点検・評価対象事業名	③ジュニアリーダー育成事業		
対象事業において支出した金額	394 千円		
事業の目的	<p>地域行事や子ども会活動等へ積極的に参加しながら、リーダーとしての資質の向上を図り、心豊かでたくましい中学生、高校生の育成を目指す。</p>		
事業の実施状況	<p>横手ジュニアリーダーの「さんかく(汗かく、恥かく、計画かく)」を目標に掲げ、活動している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回のつどい開催(ミーティング等)</li> <li>・あそぼうシリーズでの小学生への活動指導。</li> <li>・厚木市と横手市の小学生交流会時の引率、活動支援。厚木ジュニアリーダーとの交流。</li> <li>・各種研修会へ参加し、他地区中高生と交流し、リーダーとしての知識や技術を学んでいる。</li> <li>・学童保育や放課後子ども教室を訪問し、ゲームやダンスを教えたりし、子ども達とふれ合い交流している。</li> </ul>		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物事に対して積極的になり、リーダーとしての教養が身についた。</li> <li>・市内、市外の生徒との交流により、友達が増えた。</li> <li>・リーダー的存在として、クラスや部活動で活躍している。</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員の増加（市内全中学校及び市内の高等学校へ会員募集ポスターを校内掲示依頼）</li> <li>・学校でのクラブ化</li> </ul>		

		分野	2. 生涯学習の推進
項目	(2) 市民の学びへの支援	担当部課	教育総務部 生涯学習課
点検・評価対象事業名	①学校支援ボランティア活動支援事業		
対象事業において支出した金額	64 千円		
事業の目的	<p>社会の急激な変化により、学校教育活動の多様化・環境変化に対応するべく、保護者、地域の方々から協力してもらい、地域の教育力を学校の教育活動に生かす。</p>		
事業の実施状況	<p>平成23年度活動状況 登録者数:約700名、活動学校数:23校(33校中)、延べ活動者数:約7,000人</p> <p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校時の見守り、付き添い</li> <li>・読み聞かせ</li> <li>・総合的な学習の講師</li> <li>・伝統芸能指導</li> </ul>		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援ボランティアの活用により、地域へ学校活動・教育活動を見せることができる。</li> <li>・高い技術・専門知識を教育活動に反映できる。</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録ボランティアの支援分野と学校が希望している教育活動とが一致しない。</li> <li>・協力していただける地域の方々はたくさんいるが、ボランティア登録まで至っていない。</li> </ul>		

		分野	2. 生涯学習の推進
項目	(3) 多彩な学習機会の提供	担当部課	中央図書館
点検・評価対象事業名	① 読書感想文コンクール事業		
対象事業において支出した金額	772 千円		
事業の目的	<p>図書館利用者の底辺拡大と、市民の読書のきっかけづくりを目的として、幼児からお年寄りまで幅広い年齢層を対象に、短詩や標語などの短文、感想文やエッセーなどの文章、感想画やポスターなどの絵画、と思ひ思ひの表現で本や読書にまつわる作品を募集し、表彰する。</p>		
事業の実施状況	<p>平成23年度応募総数 3,140点(22年度2,852点)  (内訳:文章部門101点、絵画部門502点、短文部門2,537点)  ※最年少参加4才児～最年長参加86歳(幼児262点、小中学生2,848点、一般30点)  ※参加小中学校:小学校19校/全22校中、中学校10校/全12校中  【H23年度事業日程】  7月上旬 募集開始  11月4日 募集締切  12月2日 審査(教育指導部長、小中学校教職員など17名)  12月21日 表彰式</p>		
事業の効果等	<p>昨年に比較して応募総数が288点増加した。このことから、本事業が6回目を迎え、学校と図書館との連携強化が図られ、定着してきているものと思われる。  また、学校教育現場からは様々なかたちでの図書館利用が増えており、子どもの読書推進が図られている。</p>		
今後の課題・改善策	<p>高校生以上の一般の応募については、常連の方々がいる一方、新規の方々が少ない。  インターンシップ等で来館した高校生に応募を促しているが、今後も引き続き広報活動や読書推進を進めるための取り組みを行う。</p>		

		分野	2. 生涯学習の推進
項目	(4) 学習の場と推進体制の整備	担当部課	教育総務部 生涯学習課
点検・評価対象事業名	①放課後子ども教室推進事業		
対象事業において支出した金額	1,797 千円		
事業の目的	<p>すべての子どもを対象として、安全・安心な子どもの活動拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画を得て、学習活動やスポーツ、文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供する。 放課後児童クラブとの色分けをはっきりさせるため、長期休業日に限ることと、活動内容に各種体験活動を盛り込むこととしている。</p>		
事業の実施状況	<p>放課後子ども教室は、夏休み、冬休みの長期休業日の午前半日に実施している。これまでの5教室(横手南子ども教室、旭子ども教室、十文字子ども教室、大雄子ども教室、朝倉子ども教室)に加え、平成23年度には浅舞子ども教室と大森子ども教室を新設し、全7教室で実施した。</p> <p>活動内容は下記のとおりである。</p> <p>①実施日:夏休み、冬休みの長期休業日(夏休みは月、水、金曜日、冬休みは平日毎日)20日間 ※大雄子ども教室のみ振替休業日あり。2日間実施。</p> <p>②時 間:8時30分～12時00分</p> <p>③教室名(会場):横手南子ども教室(横手市交流センターY2ふらざ)、朝倉子ども教室(あさくら館)、旭子ども教室(旭ふれあい館)、十文字子ども教室(十文字文化センター)、大雄子ども教室(大雄子どもセンター)、浅舞子ども教室(浅舞公民館)、大森子ども教室(大森コミュニティセンター)</p>		
事業の効果等	<p>全教室、スタッフの企画により工作や異文化体験、ニュースポーツなど様々な活動が行われ、好評であった。これらの活動には、婦人会や各種サークルなど、地域の方々のボランティアによる協力をいただき、多様な活動ができたことは大変有意義であった。</p> <p>また、安全管理マニュアルも作成し、安全管理と危機管理体制を整えることができた。</p> <p>年次計画どおり浅舞子ども教室と大森子ども教室を新設できたことは、大きな成果であった。</p>		
今後の課題・改善策	<p>児童数が多い小学校は、参加希望が多く、現在の定数では足りない状況にある。スタッフを増員して定数を増やし、会場も増設する等の対応が必要である。</p> <p>また、更なる安全管理を進めるため、スタッフの資質向上のための研修や情報交換などの実施が必要であり、特に、特別支援が必要な子ども達への対応など、課題となっている点について対策が必要である。</p>		

		分野	2. 生涯学習の推進
項目	(4) 学習の場と推進体制の整備	担当部課	横手生涯学習センター
点検・評価対象事業名	②生涯学習センター事業		
対象事業において支出した金額	233 千円		
事業の目的	<p>①【横手地域市民文化祭】 横手地域の文化事業振興と市民の文化活動に対する意識の高揚を図るため、市民に親しまれ、参加者が互いに励まし合い称えあえる文化祭を開催する。</p> <p>②【子ども情報誌】 横手、山内地域の全小中学生に、夏休みに体験できるイベント情報や知識を提供し、情操教育等に貢献することを目的とする。</p> <p>③【横手地域公民館合同講座】 公民館主催講座を複数館の合同で開催することにより、指導員資質の向上及び地域を越えた参加者相互の交流を図ることを目的とする。</p>		
事業の実施状況	<p>①【横手地域市民文化祭】 参加は65団体(ステージ部門:30、展示部門:35) 開催日「ステージ部門」10/1・10/2「展示部門」9/30～10/15 入場者「ステージ部門」約830人「展示部門」約1,190人</p> <p>②【子ども情報誌】 夏秋号を4,000部発行 発行日:7/21 配布先:横手、山内地域の全小中学生、横手地区内保育園、生涯学習関係施設、情報提供元施設等</p> <p>③【横手地域公民館合同講座】 「平成23年度 横手地域公民館合同講座実施状況」のとおり</p>		
事業の効果等	<p>①【横手地域市民文化祭】 目的のとおり、横手地域の文化事業振興と住民の文化活動に対する意識高揚を図るために役立っている。</p> <p>②【子ども情報誌】 家族と共に、体験活動に取り組んでもらうきっかけ作り。</p> <p>③【横手地域公民館合同講座】 1.講座について情報交換を行い、話し合うことで指導員のスキルアップを図ることができた。2.同一講座をまとめて行うことにより講師料が抑えられる。3.他地域の受講者と交流が広がった。</p>		
今後の課題・改善策	<p>①【横手地域市民文化祭】 展示部門は会場をY<sup>2</sup>ふらざに変更したため、通行人が多いという理由もあり増員となった。また、FMでの情報提供を新たに実施して、ステージ部門の動員は多少増員したが抜本的な改革にはならなかった。来年度は、展示とステージを同じ会場で行い、日程を週末の3日間にするこで、賑わいを持たせたい。周知はチラシ、ポスターに加え、フリーペーパーでもお知らせしたい。</p> <p>②【子ども情報誌】 発行継続について検討するためアンケートを実施。役にたっているという回答が4割あったため来年度も継続する。ただし、紙媒体は情報数に限りがあり全てのイベント等を伝えることができなかつたため、来年度は横手市ホームページに夏休み子ども情報コーナーを設けて活用を呼びかける。</p> <p>③【横手地域公民館合同講座】 複数館の合同講座を継続するとともに範囲を拡大し、横手市内の生涯学習センター間による合同講座を企画したい。</p>		

## 平成23年度 横手地域公民館合同講座実施状況

開催日	場 所	公民館名	講 座 名	参加者	講 座 内 容	回数	感 想 等
6月15日	国家石油備蓄基地 男鹿真山伝承館 (男鹿市)	旭公民館	いきいき健康講座	19名	安全をたくわえる石油備蓄基地を見学することで、資源の大切さをあらためて学ぶ。 また、「なまはげ」を通し、男鹿の文化にふれ、秋田の文化を見直す。	1回	・他地域の方との交流の場が昼食時だけで終わってしまった ・バスでの移動なので各々の行動で終わった。
		中央公民館	いろり塾	27名			
6月16日 9月15日 12月20日	旭ふれあい館	旭公民館	旭子育てセミナー	120名	乳幼児をもつ親子が参加し、教室を通して楽しみながら交流を図る。(消防署見学・運動会・クリスマス会)	3回	・他地域の親子さんとの交流の場となり、参加者からも好評だった。 ・合同のため、スタッフも多く協力してできた。
		境町公民館	子育て教室	20名			
7月12日	外山森林公園 (盛岡市)	朝倉公民館	路ーみちー 自然観察	16名	自然への知識と理解を深め、参加者相互の交流と自然の中を歩くことによる健康保持増進効果を図る。	1回	・他地域の方と新たな出会いの場となった。 ・観察中、人数が多くて講師の話が聞こえづらいようだった。
		栄公民館	自然観察教室	16名			
7月22日	黒川公民館	黒川公民館	ミセス学び講座	21名	「演劇人生」と題して坂本好逸氏をお招きし、講話と昼食交流会。	1回	・他地域の方との交流の場となった。特に昼食会の際は、お互いの講座の内容を披露しあったり、一緒に歌をうたったりと、有意義な内容の講座となった。
		金沢公民館	女性スマイル講座	19名			
8月2日	横手市内 (大鳥公園他)	朝倉公民館	路ーみちー 史跡散策	15名	横手市内の史跡について実際に出向いて知識を深める。	1回	・これまで参加者が集まらず実施が困難な講座でも、合同で開催することで人数が確保できてよかった。
		境町公民館	ふるさと講座	10名			
12月10日	県立スケート場	朝倉公民館	スケート教室	26名	冬のスポーツの1つとして、スケートの技術を学び、仲間作りと親睦を深め、さらに親子での参加者には親子の時間の充実化をはかりながら、冬季の体力づくりをおこなう。	1回	・他の地域の小学生(他学校)との交流も望んでいたが、参加した学年の違いや交流のきっかけづくりがなかったため、各々で楽しむことになった。
		中央公民館	ジュニアチャレンジ教室	30名			

		分 野	2. 生涯学習の推進
項 目	(4) 学習の場と推進体制の整備	担当部課	増田生涯学習センター
点検・評価対象事業名	②生涯学習センター事業		
対象事業において支出した金額	353 千円		
事業の目的	各種講座・教室・事業を通じて、市民が学習する機会を提供する。		
事業の実施状況	<p>○ 社会教育</p> <p>増田っ子塾 対象:小学生の親子 (開催回数3回、参加者87人)</p> <p>エンジョイマンガロード(冬) 対象:小学校4年～6年 (増田っ子塾と合同)</p> <p>増田地域文化祭 対象:一般市民 (開催回数1回、発表者410人、来場者455人)</p> <p>わくわくウォーキング 対象:一般市民 (開催回数2回、参加者42人)</p> <p>書き初め大会 対象:一般市民 (開催回数1回、参加者53人)</p> <p>囲碁将棋大会 対象:一般市民 (開催回数1回、参加者18人)</p> <p>○ 社会体育</p> <p>スポーツの集い 対象:一般市民 (開催回数1回、参加者329人)</p> <p>ジュニアスキーレッスン 対象:小学校1年～3年 (開催回数3回、受講者167人)</p>		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童を対象とした増田っ子塾は、学校の学習と違った体験、交流等を得ることができた。</li> <li>・ エンジョイマンガロード(夏)は、予定地が震災被害により開催ができなかった。</li> <li>・ エンジョイマンガロード(冬)は、宮城県登米市の小学生を招いて雪国体験を実施し、かまくら作り、スキー、そり遊びなどを通じ、交流を図ることができた。</li> <li>・ 増田地域文化祭は、11月4日～6日の3日間にかけて、展示部門・ステージ部門に分かれて発表した。各団体の学習成果の発表の場となっており、そのため、日ごろの練習等も熱心で、文化祭の存在価値は十分である。</li> <li>・ 書き初め大会は、前年を上回る参加者で、日ごろの成果を発揮してくれた。</li> <li>・ 囲碁将棋大会は、年々参加者の年齢の増加とともに参加者が減ってきている状況であるが、参加者が和気あいあいと囲碁将棋を楽しんでくれた。</li> <li>・ スポーツの集いは、小中学生から高齢者まで多くの参加者の下、ニュースポーツを中心に楽しみながら年代の垣根を越える交流ができる価値ある事業となった。</li> <li>・ ジュニアスキーレッスンは、小学1～3年生までの児童を対象として行うスキー教室で地元のスキーインストラクターが親切丁寧に指導してほとんどの児童が滑れるようになり喜んでいただける事業である。</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どの事業にも共通して言えるのは、児童生徒の減少に伴う参加者の減少。また、一般の事業については、高齢化に伴う参加者の減少が見られる。</li> <li>・ 今後、事業を進めていく上で、新しいリーダーの発掘と時代に合わせた新規の事業を取り入れ少しづつ変化を加えながら進めて行きたい。</li> <li>・ 当地区の特徴を活かし、地域センター等と連携を図り魅力ある事業を今後展開して行きたい。</li> </ul>		



		分野	2. 生涯学習の推進
項目	(4) 学習の場と推進体制の整備	担当部課	平鹿生涯学習センター
点検・評価対象事業名	②生涯学習センター事業		
対象事業において支出した金額	900 千円		
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各講座、教室を開講して、市民が学習する機会を提供する。</li> <li>・スポーツ大会を開催し、市民のスポーツへの関心の喚起と健康増進を図る。</li> <li>・施設の管理運営を行い、市民に生涯学習の場を提供する。</li> </ul>		
事業の実施状況	<p>○社会教育</p> <p>①成人教育(ふるさと食材を使った料理教室) ⇒ 教室7回 参加者数32人 (3公民館共同事業)</p> <p>②高齢者教育(あやめ大学) ⇒ 60歳以上を対象 学習会7回 学生数113人</p> <p>③少年教育(少年公民館「わくわく教室」、子ども会による地域環境整備事業「花いっぱい運動」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏・冬休みわくわく教室 ⇒ 夏・冬休みの児童対象 8教室 参加者数延べ239人 (3公民館共同事業)</li> <li>・花いっぱい運動 ⇒ 子ども会を対象 花苗4種類を各20本ずつ80本を無料配布 22団体</li> </ul> <p>④乳幼児教育(りんごちゃん教室) ⇒ 未就学児と保護者を対象 教室9回 参加親子31組 (平鹿町子育て支援センターと共催)</p> <p>⑤学習成果の発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習のつどい ⇒ 芸術文化祭、浅舞地区生活工夫展、樽見内地区生活工夫展(各団体や地域と共催)</li> </ul> <p>⑥吉田地区 ⇒ 料理教室、移動研修、健康講座、生活文化展&amp;文化講演会ほか 9事業 参加者594人</p> <p>⑦醍醐地区 ⇒ 料理教室、移動研修、創作活動、健康講座、公民館まつりほか 12事業 参加者548人</p> <p>○社会体育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グランドゴルフ大会 ⇒ 平鹿地域グラウンドゴルフ大会(地区予選会3回、決勝大会1回) 参加者延べ214人 吉田地区大会 参加者56人、醍醐地区大会 参加者45人</li> <li>・ゲートボール大会 ⇒ 5チーム 30人</li> <li>・学童相撲大会 ⇒ 10校 36人</li> <li>・ビーチバレーボール大会 ⇒ 8チーム 98人</li> <li>・スマイルボウリング大会 ⇒ 参加者82人</li> <li>・ニュースポーツユニカール講習会 ⇒ 参加者44人</li> <li>・「ふるさと健康づくりマップ」作成 ⇒ 地域を学習しながら楽しく健康づくりを行う</li> </ul>		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと食材を使った料理教室 ⇒ 地域で採れる豊富な食材を使った料理教室を開催することにより、郷土料理の伝承や地産地消の推進・自家消費野菜の有効利用が図られた。</li> <li>・生活文化展&amp;文化講演会(吉田地区) ⇒ 明るく元気な地域づくりを推進するため、地区会議と共同で開催した事業であり、幼児・児童らと地域住民との世代間交流が図られた。</li> <li>・住民と協働する生涯学習活動の推進 ⇒ 昨年度から継続した自主運営組織づくり推進について、各団体の代表者で構成する「醍醐公民館運営委員会」が4月に設置され、公民館事業の自主運営化が図られた。</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児教育「りんごちゃん教室」 ⇒ 申し込み者数に対し参加者数が極端に少なかった回もあり内容の検討が必要である。他機関の事業と類似する事業については共同で実施するように連絡調整を図ることが必要である。</li> <li>・醍醐公民館運営委員会 ⇒ 今年度設置されたこの組織を自主運営組織として充実・成長させ、施設の指定管理ができる組織への発展を目指す。</li> </ul>		

		分野	2. 生涯学習の推進
項目	(4) 学習の場と推進体制の整備	担当部課	雄物川生涯学習センター
点検・評価対象事業名	②生涯学習センター事業		
対象事業において支出した金額	634 千円		
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯スポーツの充実、推進を図る。</li> <li>・定期の教室、講座を開催し、地域の方々の学習機会及び学習成果の発表の場を提供する。</li> </ul>		
事業の実施状況	<p>○社会教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雄川大学 対象:高齢者(スポレク、書道、郷土史、園芸の4学科、開催回数42回、受講者79人)</li> <li>・書道通信講座 対象:成人(開催回数12回、受講者31人)</li> <li>・アクティブキッズクラブ 対象:小学生(開催回数3回、受講者7人)</li> <li>・新春書初め大会 1月6日開催、小学生、成人(小学生21人、成人3人)</li> <li>・公民館賞贈呈式 沼館、里見公民館(地域貢献者各1人を表彰)</li> <li>・住みよい郷土づくりのつどい 各公民館(健康教室、芸能発表会、講演会の開催)</li> <li>・盆踊り講習会 対象:成人(大沢公民館4回開催)</li> <li>・沼館小唄伝承教室 対象:成人(沼館公民館3回開催)</li> </ul> <p>○社会体育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チビッコバレー教室 対象:小学生(開催回数10回、受講者44人)</li> <li>・ニュースポーツ教室 対象:成人(開催回数24回、受講者延310人)</li> </ul> <p>○スポーツ大会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雄物川駅伝競走大会 6月26日開催(24チーム参加)</li> <li>・グラウンドゴルフ大会 7月24日開催(参加者71人)</li> <li>・家庭バレーボール大会 12月18日開催(7チーム参加)</li> <li>・ニュースポーツ大会 2月22日開催(14チーム参加)</li> </ul>		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもからお年寄りまで幅広い年齢の市民を対象に、生涯学習やスポーツを通じた健康づくり、他地域との交流等に貢献できた。</li> <li>・「公民館賞贈呈式」・「住みよい郷土づくりの集い」は、地域に根ざした公民間事業であり、各公民館それぞれが公民館運営協力員の協力のもとに特色のある活動を行うことができた。</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「雄川大学」(高齢者学習)の受講者数が、減少傾向にあるので、新規受講者の確保と事業内容を再考し受講者増につなげたい。</li> <li>・小学生対象のアクティブキッズクラブについては、スポ少活動の影響もあって参加者が少なくなっている。開催内容の再考とスポ少や学校との連携を図り参加者増につなげたい。</li> </ul>		

		分野	2. 生涯学習の推進
項目	(4) 学習の場と推進体制の整備	担当部課	大森生涯学習センター
点検・評価対象事業名	②生涯学習センター事業		
対象事業において支出した金額	785 千円		
事業の目的	地域住民が豊かで健康的な生活を送るために、地域に定着した教養講座や運動事業を展開していく。		
事業の実施状況	<p>○社会教育</p> <p>活き活き学園 対象:成人(17講座、開催回数339回、受講者延べ3,382人、共催)</p> <p>夏休み手づくり工房 対象:小学生及び保護者(4公民館、受講者32人)</p> <p>○社会体育</p> <p>初心者ゴルフ教室 対象:成人(開催回数6回、受講者16人、共催)</p> <p>水泳教室 対象:学童コース(開催回数4回、受講者6人、共催)</p> <p>健康増進コース(開催回数11回、受講者10人、共催)</p> <p>夜間スキー教室 対象:高学年小学生(開催回数3回、受講者13人、共催)</p> <p>親子スキー教室 対象:小学生親子(参加者16組、共催)</p> <p>○スポーツ大会等</p> <p>花いっぱい運動 (19地区、3,780本配布)</p> <p>ふれあい登山 (房住山登山、22人参加)</p> <p>ミステリー探検隊 (岩手県小岩井農場他、78人参加、西部3地域合同)</p> <p>チャレンジデー (5,198人参加、参加率72.4%金メダル獲得)</p> <p>駅伝大会 (10チーム参加)</p> <p>元気なスポレク祭 (1,000人参加)</p> <p>産業文化祭 (展示部門132点、芸能発表部門6団体17人、入場者1,000人)</p> <p>ニュースポーツチャンピオンCUP (21団体106人参加)</p> <p>歩くスキーの集い (340人参加)</p> <p>横手市小中距離スキー大会 (340人参加、共催)</p> <p>ゴルフ場を歩く会 (26人参加)</p>		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャレンジデーはH23年度3回目で認知度も高く、参加率も高率を維持することができた。</li> <li>・産業文化祭の展示部門を1週間延長したことで、より多くの人に鑑賞してもらうことができ、出品者の励みになった。</li> <li>・西部3地域合同事業については、地域間交流として有効であり、今後も継続して実施してゆく。</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エリアで実施している活き活き学園の受講者が固定化・高齢化してきていることから、他地域からの受講者を増やす対策が必要。</li> <li>・小学生の対象事業は、人数が減ってきていることと、スポ少などの活動があるため参集が難しい。</li> <li>・大森地域の施設を有効活用するために、ゴルフ場や自然の家など関係団体と連携する必要がある。</li> <li>・大森スポーツクラブさくらが設立され、自立に向け支援を継続して実施しなければならない。</li> <li>・地域づくり協議会の提案事業も生涯学習関連事業が多くあり、これからも連携協議しなければならない。</li> </ul>		

		分 野	2. 生涯学習の推進
項 目	(4) 学習の場と推進体制の整備	担当部課	十文字生涯学習センター
点検・評価対象事業名	②生涯学習センター事業		
対象事業において支出した金額	2,461 千円		
事業の目的	<p>子どもから高齢者まで誰でも気軽に運動できる機会、学習のきっかけ、文化活動の発表の場等を提供することにより、体力の向上や市民相互の融和を図り、心身ともに健康に暮らすことができる地域を作ること</p>		
事業の実施状況	<p>○社会教育 ・H23年度開催した新事業 パッチワーク、花いっぱい運動、寄せ植え教室、節電トーク、照明・音響基礎講座 男の料理教室 開催回数: 6 回 108 名参加</p> <p>・ふれあい学級(音楽、詩吟) 対象: 60 歳以上 45 名登録</p> <p>・各地区冬季婦人講座(筋力アップ&amp;ストレッチ、芸術鑑賞、パッチワーク、料理教室等) 対象 各地区内婦人 開催回数: 27 回 受講者 延 281 名</p> <p>・十文字芸術文化祭 34 団体 約 340 名出演・出展 約 450 名鑑賞</p> <p>・孫の教育を語る会 対象 十文字第二小学校学区内全世帯 約 330 名参加</p> <p>○社会体育 ・ふれあい学級(卓球・グラウンドゴルフ) 対象: 60 歳以上 114 名登録</p> <p>・ふれあい運動会 対象: 60 歳以上 80 名参加</p> <p>・B&amp;G海洋センター水中レクリエーション 対象: 小学校低学年 32 名参加</p> <p>・各地区町民登山ハイキング 対象: 小学生以上 42 名参加</p> <p>・いきいき健康ウォーキング会 対象: 全町民 62 名参加</p> <p>・親子スキー教室 対象: 十文字第二小学校児童、保護者 151 名参加</p> <p>・各地区運動会 各地区約300名の計 約 1,200 名参加</p> <p>・各地区野球、バレーボール、バスケットボール、グラウンドゴルフ等スポーツ交流会 各々4から6チーム</p> <p>・西地区民マラソンバスケットボール大会 約 250 名参加</p> <p>・チャレンジデー 3,388 人参加 参加率 24.7 % 銅メダル獲得</p> <p>○スポーツ大会 ・選抜招待中学校ソフトテニス十文字大会 男子 6 校、女子 9 校参加</p> <p>・B&amp;G杯争奪中学校バスケットボール大会 男子 8 校、女子 9 校参加</p> <p>・十文字マラソン大会兼さくらんぼマラソン大会 304 名参加</p> <p>○その他 ・睦合盆踊り大会 中止 (天候不順による)</p> <p>・睦合農家高齢者創作館まつり(演芸・陶芸作品等の展示) 175 名参加</p> <p>・植田童っ子の雪祭り 200 名参加</p>		
事業の効果等	<p>・幅広い世代の交流を通して(運動会等)地域の絆を再確認し、地域活性化の一役を担っている。</p> <p>・日頃の運動不足の解消を推進する事業を行うことができ、参加者からも感謝の声がよせられている。</p> <p>・日頃の練習の成果等を発表する場となっており、事業の存在価値を高めている。</p>		
今後の課題・改善策	<p>・団体等の構成員が高齢化しており、後継者を育成していくことが課題である。</p> <p>・30代から50代の働き盛りの世代を取り込む施策(事業)が課題である。</p> <p>・受入れ等の場所となる文化センターをはじめとする施設の老朽化が顕著で、施設の改修が課題である。</p>		

		分 野	2. 生涯学習の推進																																																																																											
項 目	(4) 学習の場と推進体制の整備	担当部課	山内生涯学習センター																																																																																											
点検・評価対象事業名	②生涯学習センター事業																																																																																													
対象事業において支出した金額	608 千円																																																																																													
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種講座や教室を開催して市民が学習する機会を提供する。</li> <li>・スポーツ大会を開催して市民のスポーツへの親しみと健康増進を図る。</li> </ul>																																																																																													
事業の実施状況	<p>○社会教育</p> <table border="0"> <tr> <td>すくすくサロン</td> <td>対象:親子(幼児)</td> <td>開催回数</td> <td>3回</td> <td>受講者</td> <td>44人</td> </tr> <tr> <td>のびっこ公民館</td> <td>対象:小学生</td> <td>開催回数</td> <td>10回</td> <td>受講者</td> <td>184人</td> </tr> <tr> <td>キッズクラブ(2クラブ)</td> <td>対象:小学生</td> <td>開催回数</td> <td>18回</td> <td>受講者</td> <td>159人</td> </tr> <tr> <td>生きがい広場</td> <td>対象:高齢者</td> <td>開催回数</td> <td>2回</td> <td>受講者</td> <td>66人</td> </tr> <tr> <td>健康出前塾</td> <td>対象:成人</td> <td>開催回数</td> <td>13回</td> <td>受講者</td> <td>270人</td> </tr> <tr> <td>悠々講座(8講座) (山菜・郷土料理・陶芸・子供の栄養学講座等 8講座)</td> <td>対象:成人</td> <td>開催回数</td> <td>11回</td> <td>受講者</td> <td>151人</td> </tr> <tr> <td>山内の歴史探訪講座</td> <td>対象:成人</td> <td>開催回数</td> <td>3回</td> <td>受講者</td> <td>44人</td> </tr> <tr> <td>山内文化祭</td> <td>対象:全部</td> <td>開催回数</td> <td>1回</td> <td>参加者</td> <td>623人</td> </tr> </table> <p>○社会体育</p> <table border="0"> <tr> <td>スキー教室</td> <td>対象:小学1年生</td> <td>開催回数</td> <td>1回</td> <td>受講者</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>登山</td> <td>対象:成人</td> <td>開催回数</td> <td>1回</td> <td>参加者</td> <td>21人</td> </tr> </table> <p>○スポーツ大会</p> <table border="0"> <tr> <td>グラウンドゴルフ大会</td> <td>対象:成人</td> <td>開催回数</td> <td>1回</td> <td>受講者</td> <td>124人</td> </tr> <tr> <td>夫婦ハレーボール大会</td> <td>対象:成人(既婚者)</td> <td>開催回数</td> <td>1回</td> <td>参加者</td> <td>8チーム(84人)</td> </tr> <tr> <td>スキー大会</td> <td>対象:小学生以上</td> <td>開催回数</td> <td>1回</td> <td>参加者</td> <td>52人</td> </tr> <tr> <td>ユニカール大会</td> <td>対象:成人</td> <td>開催回数</td> <td>1回</td> <td>参加者</td> <td>12チーム(36人)</td> </tr> </table> <p>○その他</p> <table border="0"> <tr> <td>山内地域づくり人材養成講座</td> <td>対象:成人</td> <td>開催回数</td> <td>8回</td> <td>参加者</td> <td>58人</td> </tr> </table>				すくすくサロン	対象:親子(幼児)	開催回数	3回	受講者	44人	のびっこ公民館	対象:小学生	開催回数	10回	受講者	184人	キッズクラブ(2クラブ)	対象:小学生	開催回数	18回	受講者	159人	生きがい広場	対象:高齢者	開催回数	2回	受講者	66人	健康出前塾	対象:成人	開催回数	13回	受講者	270人	悠々講座(8講座) (山菜・郷土料理・陶芸・子供の栄養学講座等 8講座)	対象:成人	開催回数	11回	受講者	151人	山内の歴史探訪講座	対象:成人	開催回数	3回	受講者	44人	山内文化祭	対象:全部	開催回数	1回	参加者	623人	スキー教室	対象:小学1年生	開催回数	1回	受講者	18人	登山	対象:成人	開催回数	1回	参加者	21人	グラウンドゴルフ大会	対象:成人	開催回数	1回	受講者	124人	夫婦ハレーボール大会	対象:成人(既婚者)	開催回数	1回	参加者	8チーム(84人)	スキー大会	対象:小学生以上	開催回数	1回	参加者	52人	ユニカール大会	対象:成人	開催回数	1回	参加者	12チーム(36人)	山内地域づくり人材養成講座	対象:成人	開催回数	8回	参加者	58人
すくすくサロン	対象:親子(幼児)	開催回数	3回	受講者	44人																																																																																									
のびっこ公民館	対象:小学生	開催回数	10回	受講者	184人																																																																																									
キッズクラブ(2クラブ)	対象:小学生	開催回数	18回	受講者	159人																																																																																									
生きがい広場	対象:高齢者	開催回数	2回	受講者	66人																																																																																									
健康出前塾	対象:成人	開催回数	13回	受講者	270人																																																																																									
悠々講座(8講座) (山菜・郷土料理・陶芸・子供の栄養学講座等 8講座)	対象:成人	開催回数	11回	受講者	151人																																																																																									
山内の歴史探訪講座	対象:成人	開催回数	3回	受講者	44人																																																																																									
山内文化祭	対象:全部	開催回数	1回	参加者	623人																																																																																									
スキー教室	対象:小学1年生	開催回数	1回	受講者	18人																																																																																									
登山	対象:成人	開催回数	1回	参加者	21人																																																																																									
グラウンドゴルフ大会	対象:成人	開催回数	1回	受講者	124人																																																																																									
夫婦ハレーボール大会	対象:成人(既婚者)	開催回数	1回	参加者	8チーム(84人)																																																																																									
スキー大会	対象:小学生以上	開催回数	1回	参加者	52人																																																																																									
ユニカール大会	対象:成人	開催回数	1回	参加者	12チーム(36人)																																																																																									
山内地域づくり人材養成講座	対象:成人	開催回数	8回	参加者	58人																																																																																									
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山内歴史探訪講座は世界遺産に登録された平泉中尊寺への黄金の道(秀項街道:山内を經由)を探索しながら楽しく学ぶことで、身近な地域の歴史について興味を持つきっかけとなった。</li> <li>・健康出前塾や各種スポーツ大会は多数の参加者を得て、運動不足の解消、健康増進、地域連帯や仲間づくりの場として世代間を超えたつながりや交流が図られた。</li> <li>・山菜教室や料理教室は、楽しく美味しく学ぶ講座として若い主婦層の参加者が増えて、地域の伝統や食文化に対する認識を深めることにつながった。</li> <li>・山内地域づくり人材養成講座は、14名の受講生に修了証書を授与し地域の特色を知った人材として、地域での活躍が期待される。</li> </ul>																																																																																													
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い主婦層の参加者が増加傾向にあるので、継続して参加されるような講座カリキュラムや内容等を工夫する必要がある。</li> <li>・長期間に渡って開催する講座については、受講者が閉講まで出席できる魅力ある講座にするとともに、受講者にとって出席しやすい開講時間の設定等が課題である。</li> </ul>																																																																																													

		分野	2. 生涯学習の推進
項目	(4) 学習の場と推進体制の整備	担当部課	大雄生涯学習センター
点検・評価対象事業名	②生涯学習センター事業		
対象事業において支出した金額	947 千円		
事業の目的	各種講座や体験活動、スポーツ大会等を開催し、市民が学習や体験活動・健康増進を図るための機会と、学習成果の発表の場を提供する。		
事業の実施状況	<p>○社会教育</p> <p>小学生対象:チビッ子探険隊「スポーツ教室2回(37人)、クッキング教室1回(39人)、紙粘土教室1回(26人) ミステリーバスツアー1回(15人)、わくわく教室3回(76人) しかけカード作り教室1回(19人、)秋の移動子ども教室1回(46人)」</p> <p>園児～小学生対象:大雄子どもフェスティバル1/28開催(250人)</p> <p>成人対象:出前講座11回(204人)、芸術鑑賞会1回(17人)、歴史文化学習会1回(15人) 生涯学習発表会3/18 作品展示17～25日(350人)</p> <p>小学生～一般対象:大雄書き初め大会1/6日開催(92人)</p> <p>○社会体育</p> <p>小学生対象:スキー教室2回(62人)</p> <p>一般対象:ソフトバレーボール教室1回(32人)、ミニテニス教室1回(16人)</p> <p>全地域市民対象:チャレンジデー5/25開催(2,546人、参加率47%)</p> <p>○スポーツ大会</p> <p>おはよう野球大会5月～8月迄(12チーム)、ゲートボール大会1回(10チーム)</p> <p>ソフトバレーボール大会1回(10チーム)、ゴルフ大会1回(36人)、グラウンドゴルフ大会1回(29人)</p> <p>スポーツレクリエーション大会10/8開催(800人)、ミニテニス大会1回(22人)、スキー大会1回(22人)</p> <p>オープン卓球大会3/3～4(308人)、家庭婦人バレーボール大会1回(90人)</p>		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもを対象とした事業では、子どもたちが安全に安心して活動に参加できるよう配慮しながら、体験活動の機会を子どもたちに提供することができた。</li> <li>生涯学習発表会を開催し、各種の学習団体等が一年間の学習成果を発表する場の提供ができた。</li> <li>小学生を対象としたスキー教室を冬休み期間に実施したら、今年も参加者が予定人員を超えた。</li> <li>スポーツ大会事業は、大会によっては参加者が少なくなった競技もあったが、地区住民の交流と体力向上につながる機会の提供ができた。</li> <li>2回目のチャレンジデーは昨年を上回る参加をいただくことができたことから、地域ぐるみのスポーツの取り組みと、健康づくりに取り組むことができた。</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民の学習意欲を喚起し、自主的な学習を進めていくために、学習活動の中心となる指導者の発掘に努める必要がある。</li> <li>小学生を対象とした事業で、スポ少活動のため高学年の参加者が少ないので、スポ少と連携を図り参加者の増加につなげたい。</li> <li>参加者の固定化と若者の参加者が減少していることから、開催時期等を検討し参加しやすい環境づくりに努めて、参加者の拡大を図る必要がある。</li> </ul>		

		分野	2. 生涯学習の推進
項目	(4) 学習の場と推進体制の整備	担当部課	教育総務部 生涯学習課
点検・評価対象事業名	③生涯学習施設改修事業		
対象事業において支出した金額	17,688 千円		
事業の目的	「地域活性化・きめ細かな臨時交付金」を活用した改修事業。		
事業の実施状況	<p>【農山村体験学習施設】 屋根及び外壁の塗装</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農山村体験学習施設建物修繕工事实施設設計業務委託 391千円</li> <li>・農山村体験学習施設建物修繕工事 10,920千円</li> </ul> <p style="text-align: right;">計 11,311千円</p> <p>【雄物川コミュニティセンター】 高圧受電設備の改修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雄物川コミュニティセンター高圧受電設備改修工事 1,233千円</li> </ul> <p>【大沢公民館】 屋根及び外壁の改修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大沢公民館屋根外壁改修工事設計及び設計監理業務委託 326千円</li> <li>・大沢公民館屋根外壁改修工事監理業務委託 205千円</li> <li>・大沢公民館屋根外壁改修工事 4,613千円</li> </ul> <p style="text-align: right;">計 5,144千円</p>		
事業の効果等	・改修工事の実施により、施設の安全性や快適さを確保することが出来た。		
今後の課題・改善策	・今後も存続する建物については、計画的な改修工事を行う。		

		分野	2. 生涯学習の推進																																				
項目	(4) 学習の場と推進体制の整備	担当部課	教育総務部 生涯学習課																																				
点検・評価対象事業名	④社会教育施設運営事業(農山村体験学習交流施設)																																						
対象事業において支出した金額	8,487 千円																																						
事業の目的	<p>青少年の体験活動の機会を充実し青少年の健全育成を推進するため、農山村体験や野外活動体験を提供する施設「農山村体験学習交流施設釣りキチ三平の里体験学習館」を設置している。</p>																																						
事業の実施状況	<p>①目的別の利用状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>前年比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○学校授業の一貫としての利用</td> <td>9団体</td> <td>510人 ( 29人増)</td> </tr> <tr> <td>○研修会としての利用</td> <td>4団体</td> <td>57人 (1増、31人減)</td> </tr> <tr> <td>○親子会又は子供会としての利用</td> <td>8団体</td> <td>169人 (2増、11人増)</td> </tr> <tr> <td>○他施設の事業として利用</td> <td>7団体</td> <td>324人 (1減、17人減)</td> </tr> <tr> <td>○スポ少及び部活動として利用</td> <td>14団体</td> <td>435人 (2減、90人増)</td> </tr> <tr> <td>○その他</td> <td>6団体</td> <td>188人 (6増、188人増)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>48団体</td> <td>1,683人 (6増、304人増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>②地域別利用状況</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>○横手市内</td> <td>29団体</td> <td>1,130人</td> <td>(2減、16人増)</td> </tr> <tr> <td>○横手市外</td> <td>9団体</td> <td>224人</td> <td>(5増、137人増)</td> </tr> <tr> <td>○県外</td> <td>10団体</td> <td>329人</td> <td>(3増、151人増)</td> </tr> </tbody> </table>					前年比	○学校授業の一貫としての利用	9団体	510人 ( 29人増)	○研修会としての利用	4団体	57人 (1増、31人減)	○親子会又は子供会としての利用	8団体	169人 (2増、11人増)	○他施設の事業として利用	7団体	324人 (1減、17人減)	○スポ少及び部活動として利用	14団体	435人 (2減、90人増)	○その他	6団体	188人 (6増、188人増)	合計	48団体	1,683人 (6増、304人増)	○横手市内	29団体	1,130人	(2減、16人増)	○横手市外	9団体	224人	(5増、137人増)	○県外	10団体	329人	(3増、151人増)
		前年比																																					
○学校授業の一貫としての利用	9団体	510人 ( 29人増)																																					
○研修会としての利用	4団体	57人 (1増、31人減)																																					
○親子会又は子供会としての利用	8団体	169人 (2増、11人増)																																					
○他施設の事業として利用	7団体	324人 (1減、17人減)																																					
○スポ少及び部活動として利用	14団体	435人 (2減、90人増)																																					
○その他	6団体	188人 (6増、188人増)																																					
合計	48団体	1,683人 (6増、304人増)																																					
○横手市内	29団体	1,130人	(2減、16人増)																																				
○横手市外	9団体	224人	(5増、137人増)																																				
○県外	10団体	329人	(3増、151人増)																																				
事業の効果等	<p>・市内に農山村体験や野外活動体験を行うことができる施設を整備したことにより、市内・外の小中学校やスポ小・親子会等に利用してもらうことができた。また、横手市グリーン・ツーリズム連絡協議会に加入し、農作業体験等の受入れも開始した。</p>																																						
今後の課題・改善策	<p>・県内外への情報発信と年間を通した利用率の向上、特に積雪の多い冬季間の利用率が課題である。</p> <p>・市グリーン・ツーリズム連絡協議会とも連携し、県内外の関係機関等へ広く情報発信し利用率の向上に努めたい。</p>																																						



		分野	2. 生涯学習の推進
項目	(4) 学習の場と推進体制の整備	担当部課	教育総務部 生涯学習課
点検・評価対象事業名	④社会教育施設運営事業(市民会館)		
対象事業において支出した金額	31,928 千円		
事業の目的	市民の文化の発展を図り、その生活の向上及び社会福祉の増進に寄与するため、設置している。		
事業の実施状況	開館日数 303日 稼働日数 244日 (稼働率 80.5%) ホール稼働日数 146日 (稼働率 48.2%) ホール公演数 45公演 年間利用者数 54,791人 使用料収入 7,356,020円		
事業の効果等	市民会館での発表会を目標に日頃活動している文化団体も多く、文化活動発展の一端を成している。		
今後の課題・改善策	催事の質の向上、文化団体の公演のしやすさに努めているが、どの催しにおいても来客数の伸び悩みが見受けられる状況である。観客(受け手)側への舞台文化に対する関心の醸成のため、各学校の芸術鑑賞への協力や、催事の情報発信を見直すなど検討したい。		

		分 野	2. 生涯学習の推進
項 目	(4) 学習の場と推進体制の整備	担当部課	教育総務部 生涯学習課
点検・評価対象事業名	④社会教育施設運営事業(石坂洋次郎文学記念館)		
対象事業において支出した金額	10,565 千円		
事業の目的	<p>市にゆかりのある作家、石坂洋次郎の文学的業績をたたえとともに、後世へ伝え、文化の振興へ資することを目的に設置している。</p>		
事業の実施状況	<p>開館日数 304日  来館者数 4,104人 (前年度比 88.1%)  入館料収入 123,700円  ※かまくら館・横手城・金沢資料館の共通入館券。</p>		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石坂洋次郎についてのメディアでの取り上げが数回あり、記念館への取材もあった。</li> <li>・県外からの来館者も多く、石坂洋次郎の文学が再認識されているようである。</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来館者の多くが年配者であり、特に市内の若年者の来館が少ない状況である。</li> <li>・石坂文学に触れた機会のない世代への映画等を活用した普及活動を検討したい。</li> <li>・県道拡張工事は終了。今後、利便性を重視し、敷地内整備をしたい。</li> </ul>		

		分野	2. 生涯学習の推進
項目	(4) 学習の場と推進体制の整備	担当部課	教育総務部 生涯学習課
点検・評価対象事業名	⑤芸術文化推進事業		
対象事業において支出した金額	1,360 千円		
事業の目的	<p>市民の芸術文化活動の振興とともに、国県その他団体の施策を活用し、優れた舞台芸術に触れる機会の提供と市民の発表の機会の確保を図る。</p> <p>また、市で所有している絵画等の美術品を保管している美術品収蔵庫の維持管理を行う。</p>		
事業の実施状況	<p>○芸術鑑賞機会の提供 「秋田県青少年劇場」は県教育委員会、市教育委員会、芸術文化法人の共催事業。申請をした市内小学校5校のうち2校が採択され、実施する事ができた。 また、文化庁事業である「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」の「巡回公演事業」は3小中学校、「派遣事業」は2中学校が採択され実施することができた。</p> <p>○市民ステージ祭の実施 市民の日ごろの発表の場を提供する市民ステージ祭は、12月3、4日にふるさと村を会場に34団体が出演し、およそ1,100人の観客が来場した。</p> <p>○美術品収蔵庫の維持管理 市所有の絵画等を良好な状態で保存するために美術品収蔵庫の適正な維持管理に努めた。</p>		
事業の効果等	<p>○芸術鑑賞機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生の演劇やコンサートを鑑賞することにより、子ども達の情操教育に寄与している。</li> <li>・公演を鑑賞した児童生徒の感想は大変好評で、学校側からも事業の継続を望まれている。</li> </ul> <p>○市民ステージ祭の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日ごろの練習の成果を発表する機会を提供することにより、学びの意欲が高まり、活動の活発化につながっている。</li> </ul> <p>○美術品収蔵庫の維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市所有の絵画等を良好な状態に保つことができています。</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県の事業、文化庁の事業とも予算や公演回数の関係から、毎年鑑賞希望の小中学校すべてにおいて実施することができず、日程調整に苦慮している。</li> </ul>		

		分野	2. 生涯学習の推進
項目	(4) 学習の場と推進体制の整備	担当部課	中央図書館
点検・評価対象事業名	⑥ 図書館運営(中央・雄物川、横手、増田、平鹿、大森、十文字)		
対象事業において支出した金額	66,941 千円		
事業の目的	<p>知的で心豊かな市民生活及び地域社会の実現をめざして、地域や学校・家庭など様々な場における情報ニーズに応えることのできる環境を整える。</p>		
事業の実施状況	<p>【中央図書館】 4,644,914円、【横手図書館】 14,388,337円、【増田図書館】 5,592,378円、【平鹿図書館】 10,172,181円、【雄物川図書館】 12,194,309円、【大森中央図書館】 9,614,443円、【十文字図書館】 10,334,747円</p> <p>・「Y2(わいわい)ふらざ」、1階の図書・地域情報コーナーにおける図書館サービスポイントの運用を開始し、予約本の受け取りや借りた本の返却などができるようにした。</p> <p>・学校巡回図書館(定期配本サービス)の実施地区を拡大(H22:3校→H23:13校)し、児童の読書活動推進を図った。</p> <p>・各図書館におけるおはなし会(延べ43回)、出張図書館(秋田ふるさと村)、工作教室(横手・増田・平鹿図書館)など例年の事業に加え、図書館まるごと体験(雄物川図書館)など新規取り組みも実施した。</p>		
事業の効果等	<p>・貸出点数 282,359点</p> <p>・実利用者数 7,553人  ※図書館利用率(実利用者数÷人口):市全体:7.62%/地域別:横手6.4%、増田10.16%、平鹿7.53%、雄物川9.71%、大森11.14%、十文字7.93%、山内3.29%、大雄6.57%</p> <p>・Y2ふらざ図書・地域情報コーナーでサービスを開始したことにより、利便性の向上が図られた。  ※Y2ふらざ 貸出冊数:1,643冊、返却冊数:3,496冊</p> <p>・巡回図書館の実施地区拡大や学校図書館職員との合同研修により、学校図書館の実態の把握が進み、今後の支援内容について検討することができた。</p>		
今後の課題・改善策	<p>・図書館の利用率の向上のために、全館一体的な運用の推進と、利用環境の整備促進を行う。</p> <p>・小中学校については、図書の貸出だけでなく、学校図書館のサポートや学校職員向け研修の実施など継続的な支援を行う。</p>		

		分野	2. 生涯学習の推進
項目	(4) 学習の場と推進体制の整備	担当部課	中央図書館
点検・評価対象事業名	⑦市立図書館改修事業		
対象事業において支出した金額	11,390 千円		
事業の目的	<p>経年劣化の著しい施設設備の改修により、市民の安全・安心で快適な図書館利用環境を確保する。</p> <p>※地域活性化・きめ細かな臨時交付金事業  ※地域活性化・住民生活に光をそそぐ交付金事業</p>		
事業の実施状況	<p><b>【横手図書館】</b>  自動ドア修繕他工事一式 1,245,300円  (自動ドア枠の交換及び調整、床タイルカーペット張替、床防滑塩ビシート張)</p> <p><b>【平鹿図書館】</b>  トイレ改修工事  ・設計及び設計監理業務委託 451,500円  ・工事管理業務委託 147,000円  ・改修工事一式 7,668,150円  (トイレ改修、公共下水道管接続、床改修)</p> <p><b>【雄物川図書館】</b>  ピロティ改修工事 1,037,400円(屋根防水シート張替)  冷温水機修繕工事 840,000円</p>		
事業の効果等	<p>工事の実施により、市民の安全・安心・快適な図書館利用環境を確保することができた。</p>		
今後の課題・改善策	<p>図書館施設の老朽化が進んできているので、計画的な改修工事を行う。</p>		

		分野	2. 生涯学習の推進
項目	(4) 学習の場と推進体制の整備	担当部課	中央図書館
点検・評価対象事業名	⑧市立図書館充実事業		
対象事業において支出した金額	32,931 千円		
事業の目的	<p>各図書館間で複本所蔵を避けるなどの選書調整をしているため、自館のみで必要資料を利用者に提供できる状況にはない。基礎的な参考図書の新規購入・更新など、各館で不足している分野の資料を計画的に購入し、所蔵資料の充実を図る。また、それを収蔵するための書架等備品を整備することにより、館内環境の整備を図る。</p> <p>※地域活性化・住民生活に光をそそぐ交付金事業</p>		
事業の実施状況	<p>・購入図書内訳(冊)  一般書:6,547  横手935、増田464、雄物川2,719、大森346、十文字852、山内160、大雄56  児童書:7,583  横手1,521、増田1,016、平鹿1,327、雄物川679、大森324、十文字1,162、山内194、大雄348</p> <p>・書架等購入  増田／木製回転式書架他4点  雄物川／木製書架(2連・両面・傾斜3段)他5点  大森／木製書架(2連・両面・傾斜2段+直立4段)他2点  十文字図書館／木製書架(2連・片面・傾斜2段+直立4段)他</p>		
事業の効果等	<p>・基礎的な参考図書を各館で所蔵することができた。</p> <p>・ロングセラー絵本などの更新や欠本の購入をし、児童書の充実を図ることができた。</p> <p>・各館で重点選書項目を設定し、不足分野の資料の充実を図ることができた。</p>		
今後の課題・改善策	<p>・所蔵資料の利用促進のため、図書館サービスの周知を図るとともに、より効果的なサービスを検討する。</p> <p>・資料収集について、今回購入した資料の更新計画も含めて検討を行う。</p>		

		分野	2. 生涯学習の推進
項目	(4) 学習の場と推進体制の整備	担当部課	中央図書館
点検・評価対象事業名	⑨市立図書館支援サービス拡充事業		
対象事業において支出した金額	7,623 千円		
事業の目的	<p>必要な館内用品及び利用者の課題解決につながる図書資料を購入し地域住民の調査研究環境を整備する。 また、移動図書館に必要な資材を購入し、来館以外の利用拡大を図る。</p> <p>※地域活性化・住民生活に光をそそぐ交付金事業</p>		
事業の実施状況	<p>【雄物川図書館】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・購入図書内訳(冊) 一般書:895 児童書:1,012</li> <li>・司書1名雇用 受入資料の装備・登録等整理、館内利用者対応等</li> <li>・図書館用品購入 展示用ラック、ブックスタンド、折りたたみコンテナ、イベント用のぼり等購入</li> </ul>		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「農業」「高齢者支援」「子育て支援」「乳幼児向け図書」に関する資料を重点選書し、所蔵資料の充実が図られた。</li> <li>・展示用ラック等を活用し、館内展示コーナーを拡充した。また、出張図書館など館外でのサービスを実施した。</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所蔵資料の利用促進のため、図書館サービスの周知を図るとともに、より効果的なサービスを検討する。</li> <li>・資料収集について、今回購入した資料の更新計画も含めて検討を行う。</li> </ul>		

		分 野	2. 生涯学習の推進
項 目	(4) 学習の場と推進体制の整備	担当部課	中央図書館
点検・評価対象事業名	⑩学びの場整備事業		
対象事業において支出した金額	5,986 千円		
事業の目的	<p>参考図書・一般図書を充実させ、かたよりのない書籍構成をめざすことで、地域の方々の生涯学習の拠点を構築する。 また、書架等備品を整備することにより、館内環境の整備を図る。</p> <p>※地域活性化・住民生活に光をそそぐ交付金事業</p>		
事業の実施状況	<p>【平鹿図書館】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・床張替え工事一式 237,300円</li> <li>・購入図書内訳(冊) 一般書:120</li> <li>・書架等購入 木製書架(1連・片面・傾斜3段・下台部)他49点</li> </ul>		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規書架の購入により児童コーナー、雑誌コーナーなどの使いやすさが向上した。</li> <li>・図書資料の更新により、利用者の学びの環境が整備できた。</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所蔵資料の利用促進のため、図書館サービスの周知を図るとともに、より効果的なサービスを検討する。</li> <li>・資料収集について、今回購入した資料の更新計画も含めて検討を行う。</li> </ul>		



3 地域文化の振興		分野	3. 地域文化の振興
項目	(1)文化財の指定と保存活用	担当部課	教育総務部 文化財保護課
点検・評価対象事業名	①指定文化財保護管理		
対象事業において支出した金額	1,840 千円		
事業の目的	<p>指定文化財のうち、天然記念物(樹木、トゲウオ)のパトロール、景観の保全及び養生を行い、市の指定文化財の保護を図る。</p>		
事業の実施状況	<p>平成23年度の事業として「羽黒の柳」養生事業、吉田城跡草刈・殺虫剤散布業務、トゲウオ(トミヨ及びイバトミヨ)生息地の維持管理、ニホンカモシカ保護、豪雪被害の状況調査を実施した。</p> <p>文化財保護補助事業としての波宇志別神社神楽殿の箱棟等補修、日新館外壁防錆、増田伝統的建造物補修や標柱設置は、文化財保護総務事業として行った。</p>		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「羽黒の柳」養生事業:不定根を保護、促進することにより栄養分の拡散を防ぐことができた。</li> <li>・「吉田城跡」草刈、殺虫剤散布業務:史跡の環境整備の一環として草刈、殺虫剤散布を実施することにより史跡環境整備の保全に成功することができた。</li> <li>・「トゲウオ生息地」の維持管理:トゲウオ生息地の清掃、水位測定、モニタリング等を実施し当該指定地の枯渇防止を目的とした文化財保護に成功した。</li> <li>・豪雪による被害状況の調査を行い、被害のあった箇所について所有者と検討するとともに、復旧事業を行った(天龍沼倒木、民家苑屋根被害、ほろわの里資料館屋根等)。</li> <li>・金沢資料館の佐竹義重所用の甲冑について金沢八幡宮および氏子の皆さんを支援して一部補修した。</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢社会に伴う個人所有文化財の維持管理について近年、当課で管理の協力をしているものが発生してきている。現代の社会背景を基に将来的なビジョンを定めながら、当事者との協議が必要と思われる。</li> </ul>		

		分野	3. 地域文化の振興
項目	(1)文化財の指定と保存活用	担当部課	教育総務部 文化財保護課
点検・評価対象事業名	②埋蔵文化財緊急調査事業		
対象事業において支出した金額	323 千円		
事業の目的	<p>公共機関及び民間における開発行為に伴う埋蔵文化財調査費。開発予定区域において先行して試掘調査を実施し、埋蔵文化財の有無及び遺跡範囲等を確認したうえで、開発側と埋蔵文化財の保護に係る工法の変更等の調整を行う。工法等の変更後、どうしても埋蔵文化財が消滅してしまう範囲が生じた場合は、本発掘調査による記録保存を行う。</p> <p>また、試掘及び以前の調査にて出土した遺物(土器・石器等)の整理を併せて行う。</p> <p>さらに、遺跡等の置かれた環境を良好に保ち、その保全を図る。</p>		
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査対象遺跡名 中猪岡A遺跡(横手地区)</li> <li>・調査理由 市道条里跡般若寺線拡幅事業に伴う緊急本発掘調査</li> <li>・調査面積 317.3㎡</li> <li>・調査期間 平成23年9月5日～9月16日</li> <li>・整理期間 平成23年9月19日～平成24年3月27日</li> </ul>		
事業の効果等	<p>周知の遺跡である中猪岡A遺跡において市道拡幅が行われることとなったため、緊急本発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を図ることができた。また、平安時代及び鎌倉時代の遺構及び遺物を確認し、地域の歴史に関するデータの蓄積が図られた。</p>		
今後の課題・改善策	<p>市が事業主体となる開発(市道拡幅、公園造成等)に伴う埋蔵文化財の消滅に対応した本発掘調査の経費については、国や県の補助対象とならない。しかし、この場合の本調査の実施は法的義務である。よって、調査経費の全額を一般財源から支出しなければならない。</p>		

		分 野	3. 地域文化の振興
項 目	(1)文化財の指定と保存活用	担当部課	教育総務部 文化財保護課
点検・評価対象事業名	③市内本調査(県委託、国庫補助)		
対象事業において支出した金額	10,463 千円		
事業の目的	<p>県営基盤整備事業の実施に伴い消滅する埋蔵文化財について事前に発掘調査を行い、記録保存することを目的とした調査。秋田県平鹿地域振興局からの受託事業。          なお、総調査費の内、開発者負担分である92.5%を市内本調査(県委託)から、残る受益者負担分の7.5%は市内本調査(国庫補助)から執行する。</p>		
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査対象遺跡名 上猪岡遺跡(平鹿地区・横手地区)</li> <li>・調査理由 県営下郷地区農地集積加速化基盤整備事業に伴う緊急調査</li> <li>・調査面積 1,210㎡</li> <li>・調査期間 平成23年5月27日～7月30日</li> <li>・整理期間 平成23年5月27日～平成24年3月16日</li> </ul>		
事業の効果等	<p>文化財保護法に基づいた手続きを経て、遺跡のうち開発により消滅する部分の発掘調査を行ったことで、埋蔵文化財の記録保存が図られた。また、地域住民等に向けた説明会を開催し、今回調査で得られた奈良～平安時代における地域の様相について報告したことで、地域住民の郷土への愛着の向上に資することができたと考えられる。</p>		
今後の課題・改善策	<p>開発側との調整の結果、消滅する遺跡面積が大きくなりすぎると、発掘対象面積も過大となり、現在の人員体制では全面積の調査を実施できなくなる可能性がある。なお、秋田県教育委員会による人的支援は望み薄である。</p>		

		分野	3. 地域文化の振興
項目	(1)文化財の指定と保存活用	担当部課	教育総務部 文化財保護課
点検・評価対象事業名	④市内遺跡詳細分布調査(国庫補助)		
対象事業において支出した金額	1,666 千円		
事業の目的	<p>県営基盤整備事業等の各種開発行為に伴う文化財保護を目的とした埋蔵文化財の範囲確認調査。平成24年度の事業予定区域において先行して試掘調査を実施し、埋蔵文化財の有無及び遺跡範囲等を確認したうえで、開発側と埋蔵文化財の保護に係る工法の変更等の調整を行う。</p>		
事業の実施状況	<p>■調査対象遺跡及び調査面積</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清水町地区 25.0ha (県営農地集積加速化基盤整備事業に伴うもの)</li> <li>・下郷地区 23.7ha (県営農地集積加速化基盤整備事業に伴うもの)</li> <li>・金屋地区 23.7ha (県営農地集積加速化基盤整備事業に伴うもの)</li> <li>・宮田地区 27.1ha (県営農地集積加速化基盤整備事業に伴うもの)</li> <li>・柳田地区 6.0ha (ごみ処理統合施設整備事業に伴うもの)</li> </ul>		
事業の効果等	<p>開発対象地における埋蔵文化財の有無及び遺跡の範囲を確定することができた。この結果をもとに開発側と協議し、埋蔵文化財を最大限保護するべく開発内容の調整を行った結果、清水町地区における遺跡の消滅面積を約2,700㎡、宮田地区における遺跡の消滅面積を約9,000㎡(H24・25の2ヵ年調査対象分)に抑えることができ、かつ消滅部分については記録保存を目的とする発掘調査を行うこととなった。</p>		
今後の課題・改善策	<p>開発の届出なしに開発を行う例は減少しているが、届出後に工事着手の日時の連絡なく工事をスタートさせ、工事立会ができなかったケースがあった。埋蔵文化財の保護に関する制度の周知の徹底を行う必要がある。</p>		

		分野	3. 地域文化の振興																
項目	(1)文化財の指定と保存活用	担当部課	教育総務部 文化財保護課																
点検・評価対象事業名	⑤文化財普及活動																		
対象事業において支出した金額	733 千円																		
<b>事業の目的</b>																			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・雄物川郷土資料館は、横手市の中心的資料館(横手市唯一の博物館相当施設)としての位置づけがあり、特別展示室による開催や小中学校の総合学習の場として利活用されている。</li> <li>・後三年の役金沢資料館は、後三年合戦遺跡群の調査によってその成果や後三年合戦の観光客に対応できる資料館である。</li> <li>・横手市内資料館施設における特別展による資料館収蔵資料の公開活用と後三年合戦関連遺跡群や増田の蔵など文化財調整することが事業の目的である。</li> </ul>																			
<b>事業の実施状況</b>																			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・雄物川郷土資料館特別展パンフレット、旧日新館パンフレットを作成した。</li> <li>・39校の小中学校の総合学習を資料館で受け入れた。 <table border="1" data-bbox="308 1077 1161 1205"> <thead> <tr> <th></th> <th>市内小学</th> <th>市内中学</th> <th>市外小学校</th> <th>市外中学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>雄物川郷土資料館・民家苑</td> <td>28</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>後三年資料館</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> </li> <li>・雄物川地区で伝統的建造物調査を行った。</li> <li>・大鳥井山遺跡顕彰会の大鳥井遺跡国史跡指定記念イベント(子供歌舞伎等)に協賛し、地域の遺跡への関心の喚起を図った。</li> </ul>						市内小学	市内中学	市外小学校	市外中学校	雄物川郷土資料館・民家苑	28	0	4	0	後三年資料館	2	2	1	2
	市内小学	市内中学	市外小学校	市外中学校															
雄物川郷土資料館・民家苑	28	0	4	0															
後三年資料館	2	2	1	2															
<b>事業の効果等</b>																			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレット、チラシ、リーフレット等においては、見やすさと入館記念になるものとして好評を得た。</li> <li>・総合学習では昔のくらしということで実際に資料に触りながら学習した。</li> <li>・大鳥井遺跡国史跡指定記念イベントは、地域の小学校及び公民館と連携することで盛況であり、遺跡の意義等を周知することができた。公民館の計数では300名以上の入場があった。</li> </ul>																			
<b>今後の課題・改善策</b>																			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力ある特別展や特別講座を開催や他団体のイベントに協賛し、様々な形での情報発信が必要と思われる。</li> </ul>																			

		分 野	3. 地域文化の振興																
項 目	(2) ふるさとよこて博物館構想	担当部課	教育総務部 文化財保護課																
点検・評価対象事業名	①各資料館の運営																		
対象事業において支出した金額	15,517 千円																		
事業の目的	<p>各資料館では地域、歴史等に関連する資料を収集展示し、郷土文化の充実に寄与することを目的としている。</p>																		
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雄物川郷土資料館・・・歴史、考古、美術、民俗、自然の各分野にわたって資料を展示しており市の中心的な施設である(特別展を4回開催)。</li> <li>・雄物川民家苑・・・市指定の民家4棟を中心とした県内唯一の屋外展示施設として公開され、総合学習や各種行事等に利用されている。</li> <li>・ほろわの里資料館・・・「波宇志別神社神楽殿」を解体修理した際の資料と、「霜月神楽」の資料を中心に展示し一般公開をしている(5月～11月開館)。</li> <li>・後三年の役金沢資料館・・・後三年の合戦(役)に関する資料を中心に展示し一般公開をしている。</li> </ul>																		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雄物川郷土資料館では、新たな分野で「絵更紗展」や「化石展」など特別展4回を実施した。隣接する雄物川民家苑とともに利用方法として小中学校の総合学習の場として位置づけが確立しつつある。</li> <li>・後三年の役金沢資料館では、大鳥井山遺跡が国史跡となったことや、平泉前史としての後三年合戦を知る場として県外から来客が増加している。最新の発掘調査を反映した展示とした。</li> <li>・ほろわの里資料館では、波宇志別神社神楽殿をただ見学するだけでなく、その内容について知識を深める場として重要である。</li> <li>・平鹿農村伝承館では、浅舞絞り保存会の活動の場として利用されている。</li> <li>・入館者については、震災による影響で前半は減少したが、年度後半には持ちなおす傾向が見られた。</li> </ul> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23年度</th> <th>H22年度</th> <th>H21年度</th> <th>H20年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>雄物川郷土資料館</td> <td>3,124</td> <td>2,058</td> <td>2,646</td> <td>2,682</td> </tr> <tr> <td>金沢資料館</td> <td>6,267</td> <td>4,921</td> <td>4,826</td> <td>5,285</td> </tr> </tbody> </table>					H23年度	H22年度	H21年度	H20年度	雄物川郷土資料館	3,124	2,058	2,646	2,682	金沢資料館	6,267	4,921	4,826	5,285
	H23年度	H22年度	H21年度	H20年度															
雄物川郷土資料館	3,124	2,058	2,646	2,682															
金沢資料館	6,267	4,921	4,826	5,285															
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来と違った視点、提示の特別展や特別講座を開催し、入館者がより多くなるようにしていきたい。</li> <li>・展示資料の相互活用を進め、資料の有効活用を図るようにしていきたい。</li> <li>・資料館には各地に分散しており、職員数の減少も踏まえ、学校統廃合などにより空状況が増える平成28年度をめどに既存施設を全市を語ることのできる施設として整備することを検討する。</li> </ul>																		

		分野	3. 地域文化の振興
項目	(3)後三年合戦(役)史跡保存整備計画 策定調査	担当部課	教育総務部 文化財保護課
点検・評価対象事業名	①後三年合戦関連遺跡調査費		
対象事業において支出した金額	10,018 千円		
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後三年合戦関連遺跡群(金沢柵推定地、沼柵推定地、大鳥井山遺跡)の国指定に向けた予備調査。</li> <li>・国史跡にすることで効率的かつ確実な保安全管理が可能となるほか、全国的に知名度が向上し、市内における滞在型観光の対象となると考えられる。</li> <li>・後三年合戦は教科書にも掲載されている日本史上重要かつ著名な出来事であることから、関連遺跡の解明及び国による史跡指定は市民の郷土への愛着の増大に寄与するほか、市外在住の横手市出身者がふるさとに再び目を向けるきっかけとなり、交流人口の増加等に好影響を及ぼすことが期待できる。</li> </ul>		
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査対象遺跡名 陣館遺跡(金沢字根小屋地内:金沢柵推定地)</li> <li>・調査理由 金沢柵の特定及び史跡指定のための調査</li> <li>・調査面積 80㎡</li> <li>・調査期間 平成23年8月29日～12月28日</li> <li>・整理期間 平成23年4月1日～平成24年3月31日</li> </ul>		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南側沢目にて10世紀前半の遺構及び同時期の墨書土器(墨で記号や文字を書き入れた土器)が出土した。墨書された文字は呪術的な意味を持つと考えられ、古代の律令的な祭祀の流れを汲むものであり、そのような知識を持つ相応の身分の人物が当地にいたことを示すことから、後三年合戦の約150年前から金沢地区が拠点性を持っていたことを示すと考えられる。</li> <li>・新聞や雑誌で特集記事などが多く記載され、その反響は大きかった。</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金沢柵推定地と沼柵推定地に関しては未だ推定域であり、国史跡になるためには、その遺跡範囲の特定が必須で、今後、予備調査及び情報収集が必要不可欠である。</li> <li>・大鳥井山遺跡が国史跡に至るまでは11回の大規模な調査をおこなっていることから、現在のところ調査面積が少ない金沢柵と沼柵については、一定期間に渡るまとまった面積の調査の実施が必要である。</li> <li>・金沢柵と沼柵が国史跡指定に至るまでの期間は、公開講座などを行い、地域住民への関心度を維持していかなければならない。</li> </ul>		

		分野	3. 地域文化の振興
項目	(3)後三年合戦(役)史跡保存整備計画 策定調査	担当部課	教育総務部 文化財保護課
点検・評価対象事業名	②後三年合戦保存活用整備事業		
対象事業において支出した金額	2,044 千円		
事業の目的	<p>・後三年合戦関連遺跡群のひとつである大鳥井山遺跡が平成22年2月22日に横手市で初の国史跡となった。国史跡となった場合、遺跡の保存活用が求められているため、それを行うもの。</p> <p>・大鳥井山遺跡が国史跡になったことから、大鳥井山遺跡をはじめとした後三年合戦遺跡群の日本及びこの地域の重要性をわかりやすく広く市民に周知するもの。</p> <p>・後三年合戦は教科書にも掲載されている日本史上重要かつ著名な出来事であることから、関連遺跡の解明及び国による史跡指定は市民の郷土への愛着の増大に寄与するほか、市外在住の横手市出身者がふるさとに再び目を向けるきっかけとなり、交流人口の増加等に好影響を及ぼすことが期待できる。</p>		
事業の実施状況	<p>・後三年合戦シンポジウムの開催 12月3,4日 かまくら館 来場者延べ700人</p> <p>・金沢柵公開講座の開催 3月18日 美郷町公民館まなびおん美郷 来場者300人</p> <p>・沼柵公開講座の開催 7月30日 雄物川コミュニティセンター 来場者200人</p> <p>・大鳥井山遺跡普及パンフレットの増刷 20,000部増刷</p> <p>・後三年合戦史跡巡りマップの増刷 20,000部増刷(観光物産課予算)</p>		
事業の効果等	<p>・シンポジウムや公開講座では、延べ1,200名の来場があり、事業に対する興味の高さが伺われた。</p> <p>・シンポジウム等の内容が東京の商業出版社である高志書院より刊行され、しかも増刷の結果、2,000部が販売されたことから、全国的な名度の向上へも期待ができる。</p> <p>・パンフレット等は、シンポジウムや関連施設などへ配布し、大鳥井山遺跡をはじめとした後三年合戦遺跡群を理解するうえで、非常にわかりやすいと好評を得た。</p>		
今後の課題・改善策	<p>・全国の歴史観光地のほとんどは文化庁による国史跡や重要伝統的建造物群などの指定を受けており、文化財が雇用や観光客を生むということをさらに広く周知する必要がある。</p> <p>・平成23年6月に平泉が世界遺産に登録されたが、その基礎を築いた清衡関連の遺跡として横手市の後三年合戦遺跡群が存在する。これらについて短期的にはパンフレット、看板の設置、中長期的にはガイダンス施設(後三年合戦(役)ビジターセンターなど拠点施設)や史跡公園としての整備が必要である。</p>		



		分野	3. 地域文化の振興
項目	(3) 後三年合戦(役) 史跡保存整備計画 策定調査	担当部課	教育総務部 文化財保護課
点検・評価対象事業名	③大鳥井山遺跡保存管理計画策定事業		
対象事業において支出した金額	161 千円		
事業の目的	<p>国指定史跡大鳥井山遺跡の保存管理計画の策定に係る経費。保存管理計画とは史跡の良好な保存のために講ずべき処置、開発の制限及び推進体制等に関し定めたもので、作成は文化庁の指導によりほぼ義務として位置づけられている。</p> <p>なお、当該事業は国庫補助を受けて行う予定であったが、秋田県教育委員会の指導により補助事業の実施が平成24年度となったため、平成23年度は後三年合戦史跡検討会による事前協議を実施したほか、事例蒐集を行うに留まった。</p>		
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保存管理計画策定に係る事前協議 12月2日 後三年合戦史跡検討会</li> <li>・事例蒐集 脇本城跡(男鹿市)、白鳥館跡(岩手県奥州市)、徳丹城跡(岩手県矢巾町)、亀ヶ森古墳(福島県会津坂下町)、奥山荘関連遺跡(新潟県胎内市)等</li> </ul>		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保存管理計画の中核となる土地利用制限の細目(現状変更基準)策定についての考え方や基礎データとしての植生調査・航空写真などの必要性などについて意見をいただくことができた。</li> <li>・公有地化率が高い大鳥井山遺跡の特殊性をふまえるように史跡保存管理のゾーニングを行うかについての先進事例を多く入手でき、平成24年度に実施する計画策定の準備が整った。</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後三年合戦等関連遺跡整備指導委員会等と十分な連携を取りつつ、平成24年度に計画策定のための委員会を新たに立ち上げ運営する必要がある。</li> <li>・史跡整備の専門家といまだコンタクトを取ったことがないため、秋田市・大仙市など史跡整備実績のある市町村より情報を得て計画策定委員に就任いただける人材を見つけ出す必要がある。</li> </ul>		

4 生涯スポーツの振興		分野	4. 生涯スポーツの振興
項目	(1)ライフステージとニーズに合ったスポーツサービス	担当部課	教育総務部 スポーツ振興課
点検・評価対象事業名	①奥羽横断駅伝競走大会事業		
対象事業において支出した金額	922 千円		
事業の目的	<p>北上市、横手市、由利本荘市の主催で、日本海と太平洋を結ぶ画期的な駅伝競走となっている。秋田、岩手両県のスポーツ、文化、経済の交流を図ることを目的に昭和36年から開催されており、今回で51回目となる。</p>		
事業の実施状況	<p>11月4日(金)～6日(日)の3日間開催した。4日は開会式を行い、5日(土)は、午前9時に北上市役所をスタートし、横手市民会館までの6区間56.6km、6日(日)は、午前9時に横手市民会館入口前をスタートし、由利本荘市役所まで6区間59.6kmを出場チームの襷で繋いだ。各県対抗の部6チーム、一般の部20チーム、高校の部3チームの計29チームの参加による大会となった。</p>		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横手市、北上市、由利本荘市の関係者の連携と、秋田県陸上競技協会と岩手県陸上競技協会など多くの関係機関との連携により、51回という歴史ある大会を通じて横手市を広くPRしている。</li> <li>・国道107号線を疾走する選手にとって、沿道の多くの市民の声援が大きな力になった。</li> <li>・また、今大会より競技要項の変更を行い北上市、横手市、由利本荘市については、それぞれの市内の複数高校の混成チーム認め、参加チームの増加を図った。</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校の部で1チーム、一般の部でも昨年より4チームが増加</li> <li>・参加チームに関しては、高校をはじめとして多くのチームに参加してもらえるよう努力する。</li> <li>・第52回大会より、横手市のゴール、スタートを横手体育館前に移動し、市内を走行させ、大会を盛り上げたい。</li> <li>・今後も3市共催事業として、より一層連携を深めていく。</li> </ul>		

		分 野	4. 生涯スポーツの振興
項 目	(1)ライフステージとニーズに合った スポーツサービス	担当部課	教育総務部 スポーツ振興課
点検・評価対象事業名	②スポーツのまちづくり事業		
対象事業において支出した金額	18,963 千円		
事業の目的	<p>スポーツを通じたまちづくりと市民の健康づくり、競技力の向上を目的に、トップアスリートによるクリニックの開催や、合宿及び各種大会誘致に取り組み、横手の魅力(豊かな自然、豊かな食材、充実したスポーツ施設)を継続的に売り込み、地域経済の波及効果と地域活性化に繋げていく。</p>		
事業の実施状況	<p><b>【早稲田大学競走部陸上クリニック】</b>  渡辺監督率いる早稲田大学競走部(箱根駅伝、大学駅伝三冠)による陸上クリニックには、小中高生150人が参加し、国内トップレベルの監督、選手からの指導は貴重な体験となった。翌日は平鹿町あやめマラソン大会に参加し節目の大会に花を添えた。</p> <p><b>【全国ブロック選抜高校男子バレーボール大会横手わか杉カップ】</b>  全国大会でも活躍している8チームを招聘し、地元雄物川高校と大館鳳鳴高校の10チームにより雄物川体育館を会場に予選リーグ、決勝トーナメントを実施した。  体育館が連日満員の状態で、延べ6,000人が高校バレーボールのトップレベルのプレーに大きな声援を送った。  大会役員 121名、競技役員 182名、生徒役員 153名、一般来場者 6,000人</p> <p><b>【平成23年度全国高等学校総合体育大会男子バレーボール競技大会】</b>  高校生スポーツ最高峰の大会として、全国から各県代表56チームが参加、4日間に渡り真夏の若人の祭典「インターハイ」にふさわしい熱戦を繰り広げました。大会前から「一人一役」を担い、生徒役員として地元高校生がさわやかに活躍し、また出場した選手との交流も広がりました。  優勝 創造学園(長野)、準優勝 東福岡(福岡)、第3位 星城(愛知)宇部商(山口)  参加選手・監督 830人、生徒役員 646人、競技・運営役員 340人、一般来場者 18,939人</p> <p><b>【秋田ノーザンハピネッツ強化合宿in横手】</b>  秋田ノーザンハピネッツプレーイングマネージャー長谷川誠選手のクリニックを行い、バスケットボールの楽しさや魅力を感じてもらい、競技者の裾野やファンの拡大を図る。  スポ少:45名 中学生:60名</p> <p><b>【プロゴルファークリニック】</b>  女子プロゴルファー4名を招聘し、ゴルフクリニックとプロ同伴によるプレーを行った。  23日クリニック参加者50名、24日同伴プレー100名</p> <p><b>【トップアマベースボールクリニック】</b>  「横手から甲子園へ」を合言葉に、市内の中学3年生を対象に、日産自動車野球部員9名によるベースボールクリニックを実施した  8日参加者39名、9日参加者19名</p> <p><b>【合宿誘致関係団体訪問】</b>  スポーツ合宿誘致を目的に11月と12月の2回実施した。</p> <p><b>【bjリーグ公式戦】</b>  秋田ノーザンハピネッツホームゲーム公式戦を、大阪エベッサを迎えて増田体育館を会場に開催した。  トップレベルの迫力のあるプレーが随所に見られ、連日満員の観衆が熱い声援を送った。  一般来場者 17日 1,301名、18日 1,741名</p>		

### 事業の効果等

- 各種スポーツクリニックでは、トップアスリートの指導による地元小中高生のレベルアップと意識改革ができた。
- 多様なスポーツ大会等でトップレベルのプレーを観戦することで、「見る・応援する」ことによるスポーツへの関心を高められた。
- 多くの来場者が県外の方であり、横手市PRに大きく貢献できた。

### 今後の課題・改善策

- スポーツまちづくり事業実行委員会との連携により、事業内容については、毎年度見直しを図り、社会・地域のニーズに適合した事業や、競技力向上に繋がる内容となるよう検討する。
- 市内スポーツ施設を有効活用しての「合宿誘致」や、「大会誘致」を関係機関と連携し、スポーツ観光の推進を図る。

		分野	4. 生涯スポーツの振興
項目	(1)ライフステージとニーズに合った スポーツサービス	担当部課	教育総務部 スポーツ振興課
点検・評価対象事業名	③大会補助		
対象事業において支出した金額	4,619 千円		
事業の目的	<p>東北、全国大会などの競技大会に出場するスポーツ少年団員等への支援に努めるほか、地域活性化を目的に開催されるスポーツイベントに対して支援する。</p>		
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国大会等出場費補助 ジュニア層の健全育成や競技力の向上を目的として、全国大会や東北大会へ出場する選手、コーチ、監督等に出場費の一部を補助した 年間交付件数:19件(全国小学生ソフトテニス大会など)</li> <li>・大会開催補助 競技力向上と地域の活性化を目的に開催されるスポーツイベントの開催費の一部を補助した。 年間交付件数:5件(あやめマラソン大会など)</li> </ul>		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北大会、全国大会に出場したチームや選手等の経済的負担を軽減し、励みにもなっている。</li> <li>・大会の開催を通じて、地域の連携やスポーツの普及振興に大きく寄与している。</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<p>厳しい財政状況の中で、出場費補助や大会補助など今後の支援のあり方について検討する必要がある。</p>		

		分野	4. 生涯スポーツの振興
項目	(1)ライフステージとニーズに合った スポーツサービス	担当部課	教育総務部 スポーツ振興課
点検・評価対象事業名	④体育協会活動補助事業		
対象事業において支出した金額	6,000 千円		
事業の目的	<p>横手市体育協会などの全市民的な団体や市内スポーツ少年団、地域や愛好者で構成するサークル団体などの身近な団体の育成と支援に努める。</p>		
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技団体を育成支援するため、市民スポーツ大会18競技を横手市体育協会に委託して実施した。</li> <li>・8地域が統合し4年目を向かえた横手市体育協会の体制強化と事業の充実を図った。</li> </ul>		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横手市体育協会に委託したことにより市民スポーツ大会等へ参加者が増えた。</li> <li>・横手市体育協会、スポーツ少年団の組織強化を図ることで、全国大会等で活躍する選手が増加傾向にある。</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<p>各団体が経済的にも自立して活動できるように連携を図りながら今後のあり方を検討していく必要がある。</p>		

		分野	4. 生涯スポーツの振興
項目	(1)ライフステージとニーズに合った スポーツサービス	担当部課	教育総務部 スポーツ振興課
点検・評価対象事業名	⑤スポーツ賞表彰事業		
対象事業において支出した金額	13 千円		
事業の目的	<p>スポーツ競技優秀者及び体育功労者に対し、横手市スポーツ賞授与規則の定めるところにより表彰し、横手市のスポーツの振興、発展に寄与する。</p>		
事業の実施状況	<p>選考委員会で承認された体育功労者を、4月23日(土)に開催された横手市体育協会総会において表彰した。</p> <p>競技優勝者 5名</p>		
事業の効果等	<p>長年にわたって横手市のスポーツの振興に大きく寄与された方々や、全国大会で上位入賞を果たした選手を表彰することで、関係者の励みにつながる。</p>		
今後の課題・改善策	<p>今後とも横手市を代表して全国で活躍できる選手や指導者の育成に取り組んでいこう支援する。</p>		

		分野	4. 生涯スポーツの振興
項目	(1)ライフステージとニーズに合ったスポーツサービス	担当部課	教育総務部 スポーツ振興課
点検・評価対象事業名	⑥友好都市スポーツ交流事業		
対象事業において支出した金額	1,039 千円		
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横手市と友好都市である神奈川県厚木市、茨城県那珂市とのスポーツ交流により、スポーツの理解と友情を深め、両市のスポーツの発展と親善を促進する。</li> <li>・両市を交互に訪問し、スポーツ交流を通じて親睦を深める。</li> </ul>		
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚木市とのスポーツ交流事業 今年度は、厚木市より招待され、「第26回あつぎマラソン大会」に横手市より選手団5名が参加した。10km50歳男子では、1位大会新記録(佐野)、10km40歳女子では、1位(粕加谷)、同14位(讃岐)と活躍し交流を深めた。</li> <li>・那珂市スポーツ交流事業 7月9日から10日にかけて「わか杉カップ」に招待し、大会観戦、バレーボールスポーツ少年団の交流試合や、三平の里でそば打ち体験を行うなど、親睦を深めた。</li> <li>・世田谷マラソン交流事業</li> </ul>		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隔年で、マラソン大会を通じてスポーツ交流を図ってきており、有効都市として一層親交を深めることができた。</li> <li>・スポーツ少年団員が、スポーツを通じて技術力の向上と相互の交流を深めている。また、指導者同士が相互の活動状況等を情報交換しながら交流を深めることにより、今後の指導に生かしている。</li> <li>・陸上競技協会の推薦を受け、2名の選手を派遣した。</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚木市及び那珂市の交流事業の中で、他の競技での交流も視野に入れて検討していく。</li> <li>・世田谷マラソンへの参加をきっかけとして、地域交流へ発展できるようにしていく。</li> </ul>		



		分野	4. 生涯スポーツの振興
項目	(1)ライフステージとニーズに合った スポーツサービス	担当部課	教育総務部 スポーツ振興課
点検・評価対象事業名	⑦体育施設環境整備事業		
対象事業において支出した金額	11,876 千円		
事業の目的	<p>老朽化に伴い、計画的に施設の改修を行い、市民が安心・安全に利用できる施設を目指す。</p>		
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横手体育館外床改修工事 1, 291千円</li> <li>・体育施設トイレ改修工事(雄物川、山内) 6, 123千円</li> <li>・浅舞スポーツセンタートイレ改修工事 4, 462千円</li> </ul>		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が安心・安全に利用できる。</li> <li>・各種スポーツ大会をはじめ、全国規模の大会誘致が可能になる。</li> </ul>		
今後の課題・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内に60施設を数える社会体育施設がある。既存施設は、老朽化が進んでおり、整備計画を策定し改修工事等を実施する。</li> <li>・施設が市内に分散していることから、統廃合を含めた検討が必要と思われる。</li> </ul>		

## IV 学識経験者の意見（総評）

点検・評価の対象は多岐にわたっているが、学校教育の充実、生涯学習の推進、地域文化の振興、生涯スポーツの振興の4分野に分けて意見を述べる。

### <学校教育の充実>

学校統合推進事業については、適正規模の学級数等に考慮され、学校統合計画が問題なく推進されている。

スクールバスについては、今後バスの老朽化や故障等により、財政上の負担となっていくと考えられるため、計画的に予算措置をし、対応していく必要がある。また、学校の各種行事等へ幅広く利用されており、有用に活用されている。なお、スクールバスは重大な事故につながる危険性があるので、日常の点検管理に十分配慮し、安全確保に努めてほしい。

現在、スクールバスは全て市で運行しているが、業務委託も含めて、より良い運行のあり方を検討する必要がある。

学校管理については、全ての学校へ防犯カメラが設置され、万全を期すための努力があり評価できる。しかし、防犯カメラによる記録の情報管理を行う必要がある。

また、洋式トイレを設置するなど細かい配慮が伺える。

教員や外国語指導助手（ALT）の研修については、充実した研修が実施されており大変評価できる。

教育相談については、非常に相談件数が多いと認識しており、今後も充実した体制を図ってほしい。

不登校適応指導教室事業「南かがやき教室」については、不登校児童生徒の学校復帰者が多数おり、大変に効果があると評価できる。

就学前言語障害児指導事業「幼児ことばの教室」については、今後も言語聴覚士などの専門性のある指導員の配置に努めてほしい。

学力向上や人との係わり合いなどを培う中で、教育委員会各分野からの支え合いが認められる。また、これまでの反省を元に、新たに思考をしながら取り組んでいる。不登校適応指導教室に参加することのできない子どもに対し、学校と家庭のパイプを太くするよう、教育委員会全体で支えている取り組みが評価できる。特別支援教育についても同様である。なお、より効果的な指導、運営をする上で教育相談員や専任指導員等の充

実を図る必要がある。

学校図書館の司書補助員については、苦慮しながらも配置への努力が伺え、学校における教育活動上、効果的な図書館運営が図られている。今後も学校図書館の活性化につながる体制を整えてほしい。

奨学金貸付事業については、償還金の収納率向上への努力が伺える。

学校給食の1日あたりの提供食数は8,050食と大変多く、滞納者も多い状況である。学校給食はバイキング給食や行事食等、大変工夫し提供されており、家庭の中で給食の献立を話題にした会話ができれば、滞納者の意識も変えることが出来るのではないかと考える。ますます充実した給食の提供を期待する。

また、学校給食への地場産物の活用には、安定した供給が必要である。使用率向上のための体制を整えるよう努めてほしい。

#### <生涯学習の推進>

成人式開催事業は、新市となって新成人の数も多く、地域も広範囲に及ぶことから、様々な問題に配慮し開催してほしい。

図書館は地域文化を象徴する施設であり、様々な工夫がされ、充実した運営がされている。本を媒体として、幅広い年齢層の方々のつながりを考慮しながら取り組んでいることは望ましい。さらに、ふと足を運びたくなるような図書館の運営を検討してほしい。

市立図書館は8館の図書館を運営しており、業務量の多さと同時に良さもあると考える。図書館を楽しい場とするため、昔語りなどができるスペースの確保や、地域の方々や子ども達が自由に集まることができるよう工夫が必要である。

Y2 ぷらざ図書・地域情報コーナーにおいて図書館サービスが開始され、高校生等の若い年齢層の利用者が非常に多い。市民目線に立った事業であり大変評価できる。今後も、利便性向上のため施設の拡充を期待する。

生涯学習については、これまで工夫して取り組み、実践してきた足跡を感じることが出来る。地域や関わりのあるの方々にとって、大事な事業が多く実施されている。家庭教育を含めた広い分野での取り組みが必要である。

各地区公民館では、様々な魅力のある主催事業が実施されている。しかし、市民には住んでいる地域以外の公民館事業の情報が乏しい。公民館報も発行されており、合同講座も実施されていることから、他の公民館の情報を幅広く提供することが必要である。

全ての公民館事業へ誰でも気軽に参加できる工夫をし、活性化に努めてほしい。

生涯学習における公民館事業については、それぞれの地域のニーズに応じた取組みを受け継ぎながら、新たなものを作り上げてきている足跡が感じられる。公民館は学びの場としての市民の支えであり、その成果を伝えてほしい。

#### <地域文化の振興>

横手市の文化財は、市民が誇りをもてる素晴らしいものであり、市民もこれまで以上に強く感じていると思う。シンポジュームの開催やパンフレット等を通して、文化財の価値を広めていることは評価できる。また、生涯学習の素材としても大きな力になっている。今後も継続して事業に取り組むことを期待する。

#### <生涯スポーツの振興>

スポーツのまちづくり事業については、幅広い多くの事業が実施されており感服した。また、奥羽横断駅伝競走大会は半世紀にも及ぶ伝統のある大会であり、高校生の参加を促しながら、是非今後も継続してほしい。

最後に、教育が担う分野は広範囲にわたり、各種事業の成果と課題を十分に把握し推進していることは大変評価できる。

多岐に亘っている業務を遂行する上で、「のりしろ」を大事にしてほしい。お互いを高めあい、より良いものを作っていくうえで大切であり、「のりしろ」が大きくなるほど教育委員会の業務が円滑に推進されると考える。厳しい財政状況の中で、それぞれの課が協力し合い、このように事業が充実していることに敬意を表す。今後とも、知恵と工夫を持って、それぞれの立場を理解しながら、横手市の教育の充実・推進が図られることを期待する。